豊橋市制施行100周年記念

校区のあゆみ

大清水

豊橋校区史 40

Oshimizu

写真撮影：小林春吉氏

校区のあゆみ
大清水

心がかよいあう
すみよい町　大清水

校区のあゆみ 大清水

ふれあいあう校区行事

しあわせ地蔵　6年　池田　桃花

ふるさとの塔　6年　神谷　昇次

木遣り奉納　6年　村松里津子

三世代レクスポ大会（大清水校区のふれあい行事）

勇気と忍耐の開拓団

高師原は小松しか生えない赤土の原、旧陸軍の軍用地だった。ノハナショウブ、ハルリンドウ、ナガバノイシモチソウ、モウセンゴケなど美しい野草の宝庫であった。終戦となり空襲で焼け出された街の人々が、昭和21年から開拓団をつくり、この原の開墾に立ちむかった。明日への希望を胸に秘めて、勇気と忍耐を持って、力いっぱい鍬を大地にうちおろした。しかし、肥料もなく、苦しみだけで作物はとれなかった。

分教場へ通う子どもたち

子どもたちは、雨の日には防空頭巾をかぶり、裸足で分教場へ通った。遠い子は4㎞も歩いてきた。初めて開かれた大清水分教場には、1年から3年まで100名の子どもが通い、先生は山口孝雄・高荻秀夫・細谷千枝の3名が配置された。ずぶぬれになって登校する子どもたちを火鉢に落松葉をたいてあたためた。その火鉢は私たち教師が手作りしたトタン張りの大火鉢だった。

大清水小学校校区のはじまり

やせた土地に人々の開拓の心がしみとおり、作物がとれるようになった。そして学校も大清水小学校として独立した。

開拓と大清水小学校
校区独立物語
山口孝雄氏制作

注）この絵と文章は、大清水小学校の玄関に掲げてあります。

航空写真で見る大清水

▲昭和35年の大清水

▼平成10年の大清水

発刊によせて

平成18年度
豊橋市総代会長
西　義雄

このたび、豊橋市制施行100周年を記念し、「豊橋校区史～校区のあゆみ」を発刊する運びとなりました。皆様のご協力により記念事業にすばらしい彩りを添えることができましたことを、心よりうれしく思います。

この事業は、100年の節目を契機に地域の歴史や文化、自然などを改めて見つめ直し、将来の夢に思いを馳せていただくものであり、51校区すべてが足並みを揃え発刊できたことに、たいへん大きな意義を感じています。また、各校区におきましては、編集委員を中心に多くの地域住民の皆さんが資料の収集や原稿の執筆などに携わられたことと思います。こうした取組みを通し、地域の絆がさらに深まったものと考えています。

地域イベントの開催を含め「市民が主役」を合言葉に行政と協働で進めてきた100周年記念事業ですが、多くの地域住民の方々が様々な形で挙って参加できたことが何よりの成果であったと思います。今後におきましても、この100周年記念事業を一過性のものに終わらせるのではなく、次の100年に繋げていかなければならないと考えています。

最後に、本校区史の発刊にあたり、多大なご協力を頂いた多くの皆様に改めてお礼を申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。

平成18年度
大清水校区総代
仲井政弘

大清水校区は、昭和33年に大清水小学校の独立とともに誕生した若々しい校区です。

「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず、(中略) 久しくとどまりたる例(ためし)なし。世の中にある人と栖(すみか)と、またかくのごとし」とありますように、歴史の浅い大清水校区は少しずつ変化してきました。

校区史は町民の歩みです。町民一人ひとりの汗と辛苦と深い想いの流れでもあります。先人から私達に、そして子孫へと受け継がれていく流れでもあります。

校区誕生以来、50年近くの歳月を歩んできました。時代の進展にともなって、町の様相も変遷していく時、先人が営み、築き上げた業績を、そして、現在の活動状況を収録し、整理することは意味あることと考えます。その積み重ねられた歩みの中から、大清水の進むべき道筋を見出すことができれば幸いです。

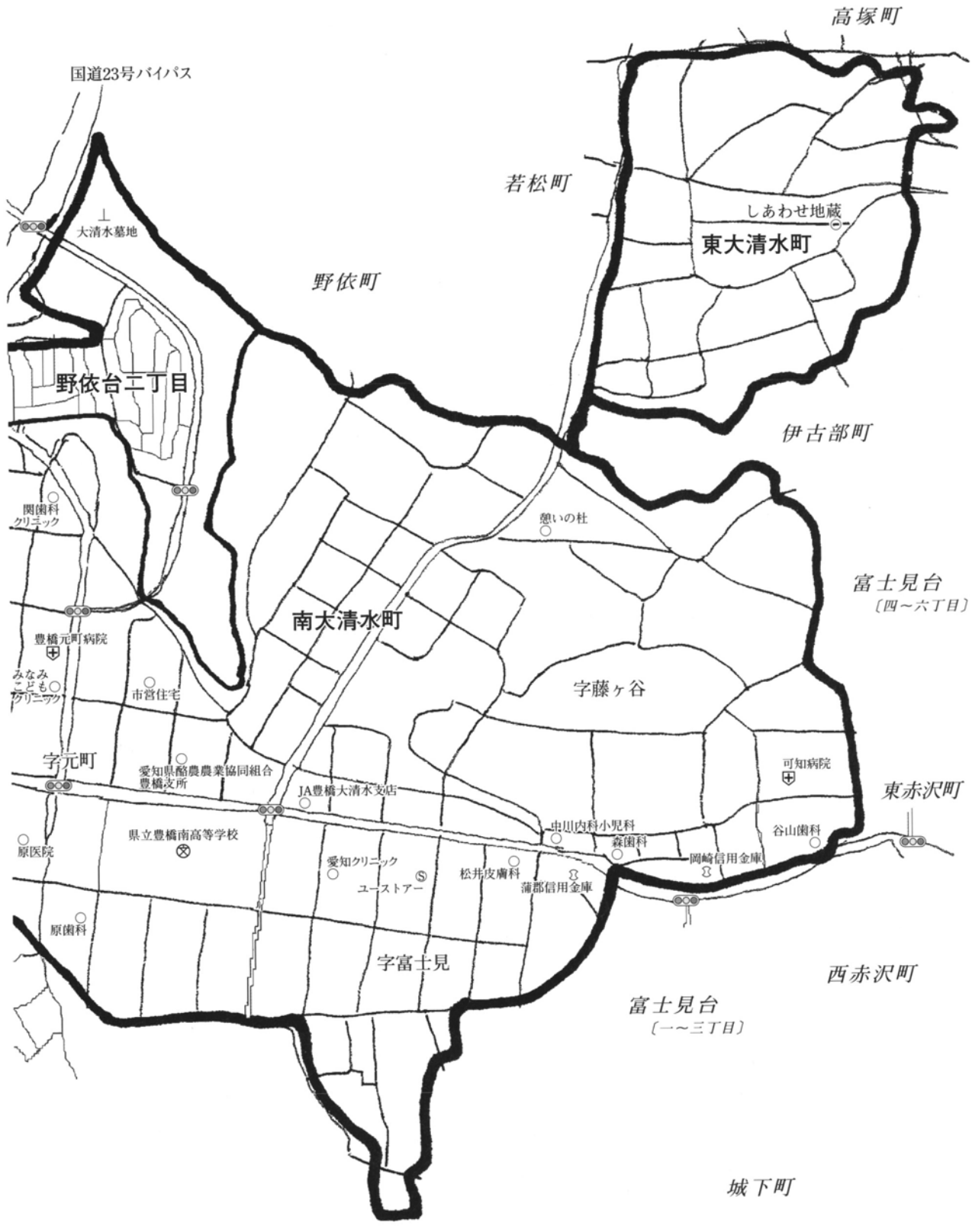
また「大清水は、人と人との結びつきが深く、住みよい町である」と言われています。町民がいつまでも安全で、安心して生活できる町でありたいものです。

本冊子は大清水校区を知る案内・紹介書として、さらに校区史が地域の連帯感や郷土愛を育み、深める一助になることを念じています。

校区史の発行にあたり、多くの方々のご協力をいただき、誠にありがとうございました。

大清水校区図

位置：（大清水小学校）	平成17年10月１日
北緯：　34°　41'　43"	人　口：6,398人
東経：137°　21'　47"	世　帯：2,361世帯

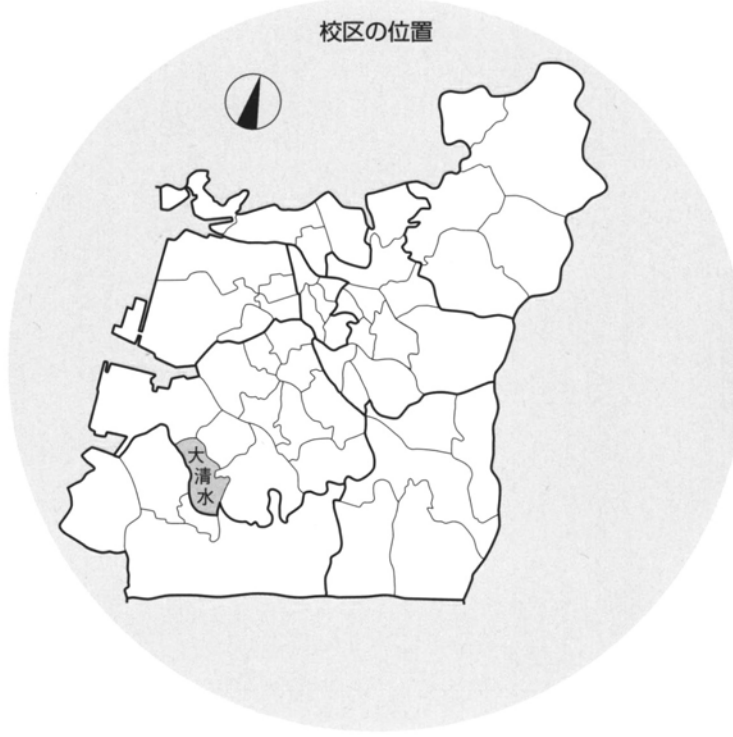

高塚町
国道23号バイパス
若松町
しあわせ地蔵
東大清水町
大清水墓地
野依町
野依台二丁目
伊古部町
関歯科
クリニック
憩いの杜
富士見台
〔四～六丁目〕
南大清水町
豊橋元町病院
みなみ
こども
クリニック
市営住宅
字藤ヶ谷
字元町
愛知県酪農農業協同組合
豊橋支所
JA豊橋大清水支店
可知病院
東赤沢町
中川内科小児科
谷山歯科
森歯科
県立豊橋南高等学校
原医院
愛知クリニック
ユーストアー
松井皮膚科
蒲郡信用金庫
岡崎信用金庫
原歯科
字富士見
西赤沢町
富士見台
〔一～三丁目〕
城下町

目　次　CONTENTS

写真・さし絵で見る大清水
大清水校区図

第１章　自然と環境
1　大清水校区の概要 …… 9
（1）シンボル「花しょうぶ」の校区 …… 9
（2）荒地を開いて60年 …… 9
2　気候の様子 …… 10
（1）吹く風強く …… 10
（2）年間通じて過ごしよい …… 10
第２章　歴史と生活
1　大清水校区のあゆみ …… 11
（1）むかしの大清水 …… 11
（2）歩みはじめる大清水 …… 11
（3）拓かれる大清水 …… 12
（4）開けゆく大清水 …… 15
（5）すみよい大清水 …… 16
2　大清水校区の活動 …… 18
（1）校区総代会 …… 18
（2）校区の発展をささえる各種団体活動 …… 18
（3）結びつきを深める各種行事 …… 20
（4）安全・安心な町めざして …… 23
（5）「校区の活動」のまとめ …… 24
3　大清水神社 …… 24
第３章　教育と文化
1　地域の子育て …… 27
（1）大清水小学校 …… 27
（2）大清水幼稚園 …… 29
（3）市立こじか保育園 …… 30
2　社会教育とコミュニティー活動 …… 31
（1）社会教育委員会の誕生と使命 …… 31
（2）社会教育委員会の活動 …… 32
（3）婦人会の活動 …… 33
（4）青年会の活動 …… 35
（5）家庭教育推進事業への取り組み …… 35
（6）校区に貢献する人々 …… 37
（7）市民館活動 …… 38
（8）心がかよいあう
すみよい町　大清水 …… 40
3　子どもが見る大清水 …… 41
年表　大清水校区年表 …… 45
編集後記 …… 52

さし絵（花しょうぶ）
大清水小　６年　吉岡　一美



表紙：しょうぶ園祭り
大清水小　６年　木下　慶美

本扉：上／しょうぶと３羽のはとマーク
大清水校区章
下／祭礼の子どもみこし
大清水小　６年　後藤　有沙

第1章　自然と環境

1　大清水校区の概要

(1) シンボル「花しょうぶ」の校区

2,361世帯、人口　6,398人（平成17年）の大清水校区は、昭和33年、大清水小学校の開校とともに誕生した。私たちの校区は「花しょうぶ」を校区民の象徴として、町づくり、人づくりに積極的に活かしてきた。その代表行事、６月の「しょうぶ園祭り」は、大勢の老若男女で賑わいをみせる。

また、二つ目の象徴として「ふるさとの塔」がある。大清水駅から東へ80メートル、県道植田赤沢線上の踏切りの脇（わき）に「大清水を心のふるさとに」と標した「ふるさとの塔」が建っている。校区創立30周年記念事業（昭和62年）で建てられたものである。塔の周りの花壇は、いつも花が絶えない。地域のボランテイアにより維持されている。

位置は豊橋の南部　新豊橋駅より渥美線で18分程で大清水駅に着く。当駅は、校区の中心からやや西よりの位置にある。朝夕は主に県立豊橋南高等学校の生徒が乗り降りする、通学、通勤者の多い有人駅である。

大清水校区は、大清水町、南大清水町、東大清水町、野依台二町目の四町からなる。大清水町の字名には、嫡田（よめた）、彦坂、大清水がある。また、南大清水町の字名には、元町、藤ケ谷、富士見がある。東西1.5㎞、南北3.2㎞、面積4.2㎢。海抜は、校区北側で10ｍから南側は50ｍ程である。

国道259号線を豊橋市役所より田原市方面へ南下すること9.5㎞、南消防署大清水出張所辺りが校区の北辺になり、同国道が大崎校区との境になる。

平成16年３月に開通した国道23号線豊橋バイパス沿いに、北東の境があり植田校区と接している。同バイパス大清水インターチェンジを境に隣接するのは野依校区である。このインター南側には新しい住宅地、野依台二丁目ができ、平成６年に大清水校区に参入した。校区の東に位置する。

昭和48年から建設の進んだレイクタウンは、しばらくは大清水校区であったが、59年に富士見校区として分離独立し、校区南側の境となった。西の境は老津校区と接している。昭和41年に東大清水町となった地域は、校区南東方向に出島のように出ていて、野依校区、豊南校区と接している。

(2) 荒地を開いて60年

開墾鍬（かいこんぐわ）の音が響いて　現在の大清水は、土地の起伏はややあるものの、地表はならだかであり、密度の高い住宅地と広く豊かな生産力をもつ畑が広がる。街路樹や庭木の緑は多いが、林や森といったものはない。今、開拓初期の様子を想像することはできないほど住宅地化している。

大清水は、洪積台地（こうせきだいち）の上にある。一万年以上前に隆起してできたもので、主に砂利（じゃり）層と粘土（ねんど）層である。酸性度が高く、表面は赤土であったため、小松と笹が、やっと生えるばかりのやせた土地であった。耕作地としてはおよそ適していない荒れ地であった。

昭和20年に始まった開拓は、「開墾鍬（かいこんぐわ）」一

本の手作業で行われた。期限を切られた開拓である。夜明け前から日が落ちた後も、開墾鍬の音が数年間に渡り響いていた。

注　開墾鍬：刃の金属部分は、短く肉厚。刃先はとがった丸みをおび、硬い土を掘り起こし、小松や笹竹の根を切りやすい鍬。

飛行場跡地の開墾　大清水校区は、台地の高師原南側と天伯原西側を、ちょうど跨いだようにある。昭和12年の軍用地になるまでは、近隣の入会地としてしか使われていなかった。昭和15年に旧陸軍が、現在の大清水小学校辺りを中心にして飛行場を建設した。

終戦後、大清水地区に入植した開拓民は、この飛行場跡地の開墾にあたり、筆舌に尽くし難い想像を絶する辛苦の時期があった。

「ローラーで固められた仮配分の土地は、重い開墾鍬を振りまわしても、一回1㎝ほどが掘れるだけです。十回振り下ろして、やっと握り拳一つほどの穴しかあきません。中学3年という若さでしたが、それだけでしばらく休憩です。腕も腰も、そうしないと続きません。30㎝四方を起こせば、汗みずくで目が回り、鍬を握る力がなくなります。」（入植者二世談）

それから六十年、生活のしやすい校区に　大清水校区には、医療施設、福祉施設、県立高等学校、文化・体育施設、金融機関、郵便局、小売店、専門店、喫茶食堂、大規模商業施設、スーパー、コンビニエンスストアー、レジャー施設、中小の工場、市営住宅、アパート、社宅などの充実とともに、交通環境も整ってきている。そしてなによりも、ここに住む人々が、「安全・安心の町づくり」を意識して積極的なボランティア活動をしている。

このように、物的な環境と人的な環境の両輪が、歴史の浅い校区を発展させている。

開拓記念碑と誌碑

また、伊勢湾台風では大きな被害を受けたが、それ以後は自然災害のほとんどない地域であることも、住みよさであるといえよう。

2　気候の様子

(1) 吹く風強く

冬の季節風「三河のからっ風」　大清水に移り住んできた人々が、異口同音にいわれるのは「風の強いところですね」である。季節に係わらず風のよく吹く日が多い。とりわけ、冬の季節風は強く、ときに台風なみの強さで終日吹きつける。夜中、屋根や壁にあたった風の音で寝つけないことが度々あるほどである。この風は、三河湾から一気に大清水まで吹きあがってくる。このため体感温度は大変低く感じる。

(2) 年間通して過ごしよい

日向はぽかぽか　真冬の季節風の強い日でも、風のあたらない日向は、とても暖かい。雪国出身の人が、「冬、こんなに一日中太陽が出ていることが信じられない」と話す。

大清水は雨が少ない。冬場の晴天の印象は、「日の出から日没まで陽光はさんさんと降りそそぐ」のである。冬季の晴天日数は月平均17日になる。風に当たらない限りにおいて、暖かく過ごすことができる日が多い。降雪や霜もほとんどない。

夜のそよ風心地よく　春や秋は、好温、適雨で、風も穏やかである。夏期の蒸し暑さは大変厳しいが、午後になると太平洋からの南風が吹き、体感的な暑さはやや和らぐ。そんな日は、陽が落ちて夜も更けると、とても心地よい北風が、網戸を通して部屋の中をそよそよと吹きぬける。エアーコンディショナーの効いた住宅では味わえない贅沢である。

第2章　歴史と生活

1　大清水校区のあゆみ

（1）むかしの大清水

現在、私たちは大地の上で生活を営んでいる。気の遠くなるような大昔からこの大地は、今に続いている。昭和33（1958）年に豊橋市牛川町で発見された古代人の人骨は、旧人に属する５～８万年前の人類で、今のところわが国で発見された化石人骨の中では最古のものとされている。

牛川人のような人たちがどのような生活をしていたかは、想像するしかできないが、大清水校区にもこのような旧石器時代の痕跡が認められるのは驚きである。すでに、周辺地域の校区が発行している郷土誌には、大清水校区で発掘された石器が記載されている。

【藤ケ谷地区：尖頭器、石鏃（やじり）】

【本町地区：蛤刃、石のおの】

また、平安時代に生産されたという土器や窯後も発掘されている。

【藤ケ谷地区：古窯址】

【本町地区：古窯址、碗、山茶碗】

近世、江戸時代になると、渥美半島を巡ったいくつかの旅人による紀行文がある。そういった文章により、私たちは大清水がいかに広漠荒蕪（果てしなく広く、荒れて雑草が生い茂っている）なところであったかを察することができる。

高師から老津に向かう道中　やみ路にともし火なけれは（ば）ものすさまし（じ）く、田のくろ小松の野はらなと（ど）かすかす（かずかず）過ぎて、戌すく（ぐ）るころ大津（老津）にはつきぬ。

老津から高師へ帰るみち　一里あまりゆきて細き流れあり、二ところ三ところ渉れは（ば）下る坂あり、向かひは野依といへる村なり、此のあたり名に生し小松はらにて、一尺（約30㎝）にたらねと（ど）枝ふりてめて（で）たし、行々ともみなおなし（じ）小松也、「わけ入りし小松が原の中々に　なか（が）めは深き緑なりけり」（三河日記　天保10年）

高豊町の表浜を伊良湖へ旅した赤沢近辺　空は晴れながら、きのふ（昨日）の雨のなごりもよほして風いとう吹き、うら風すさまじくいさごを吹きあげしかば、目をきりふたがりて浦つたふ（う）もものうく、これよりはくが路（陸地の路）をたどらんと赤沢山・しひの木の森などこえ行くに、道はつづら折にしてあしのたちばもいとあやうし、かろうじて木の根・草のかづらなどをよじてやうやう城下へ出る（伊良古之記　文化元年）

（2）歩みはじめる大清水（大正末年頃～昭和20年）

大清水の名　大清水地域が確りと史上に表れるのは、ずいぶん後代のことである。明治39（1906）年、高師、植田、野依、大崎、磯辺、福岡の各村が合併し、高師村となり、旧各村に大字を付したときに始まるのではないかと思われる。だが、大正13（1924）年に開業した渥美電鉄(株)渥美線の駅名として、「大清水」の地名を見ることができる。

大清水の名前の由来も表記されたものは見当たらないようで、憶測で語られている。例

えば、ある資料には次のように記されている。「大清水は御料林で、山林に過ぎなかった。そして、その御料林と陸軍用地との境界線近くに清水の湧水して流れ、陸軍の演習時には兵馬の用水として使用されており、その陸軍方面から大清水の名が出たのかもしれない。」また、別の資料には「今の大清水駅南方から西の方にかけての一帯は通称老津原といわれ、この原の一部に清水が湧き出る所があり、付近一帯は湿地で、東側の低地は池になっており、この池の中からも清水が湧き出ていたことから『大清水』という地名がでたともいわれる。」と記されている。いずれにしても湧水が湧き出た所があったことは間違いないであろう。また、このような状況の風景全体を表したのかもしれない。

もともと大清水校区は渥美半島の付け根に位置し、標高10～50m程の起伏の多い洪積台地であり、処々に湿地があり、湧水があったと思われる。昭和10年代にはいり、陸軍が大清水駅より南部に飛行場を建設するにつれ、起伏のある丘陵が平坦化された。そのため湿地帯も埋め立てられ、かつての面影を留めていないと考えられる。今では在ったと語られる大きな湧水のありかは、行方がわからない。

北部地域の開発　大清水の北部方面は、幕藩時代以降、周辺集落農民の採草地として利用されていたようであるが、実際に大清水が動き出すのは、渥美線沿線以北から田原街道（国道259号線）までの地域の耕地化をはかったことにはじまる。大正12（1923）年、野依、大崎、植田地区が払下げ組合を設立し、御料林約100町歩の払下げを受けた。大正15（1926）年ころより、この地へ農家の移住が行われるようになった。

昭和７（1932）年、高師村が豊橋市に編入されることにより、高師村大字植田地区の内の字大清水、字嫗田、字彦坂の３字で豊橋市大清水町が生まれる。

大清水町への開発移住の歩みは遅く、昭和９（1934）年ころまでに７～８戸ほどが移住した。しかし、住民の開発意欲は旺盛で、惣代（総代）を設け、昭和７年には大清水結成同盟会を立ち上げ、昭和８年になると大清水町規約が定められた。また、町による伊勢神宮、秋葉神社への代参、大清水町道役、協議費徴収割表（掛金表札）などが行われた。（資料　大羽博孝氏蔵）

当初の移住者は、ほとんどが開拓に携わった農家であったが、昭和11（1936）年ごろ、本町地区に商店が開店することになった。また、紡績会社が建設されることになり、建設のための人たちの移住が行われた。引き続き工場の操業につれ、従業員の社宅の建設もすすめられた。大清水駅は、軍人の出入りに始まり、紡績工場の関連で人の動きが出るようになる。人の動きが盛んになると、駅前地区で煙草の販売をする兼業農家もでた。

（3）拓かれる大清水
（昭和20年～40年ころ）

南部地域の開発　戦後のさまざまな混乱の中で、渥美線沿線の「いも」や「魚」の買出し客のにぎわいは、ものすごいものがあった。

大きな買出し物資を背負った「担ぎ屋」の群で混雑を極め、電車の乗り降りも、大変な困難がともなった。こうした激しい世情の中

昭和20年代中頃の開拓風景

で、大清水も大きな変化を見せていた。軍隊のにおいは消え、旧陸軍飛行場、旧演習場の址は、荒涼とした原野として現われ、かつての戦時の緊張感は全く見られなかった。戦後、半年も経ずに、ここに開拓民の鍬の音がするなど信じられない状況が出現し、世の移り変わりの激しさを感じないわけにはいかなかった。

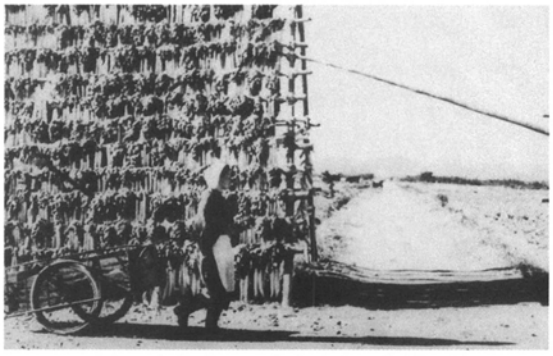
開拓事業　戦後の一時期は、全国的な食料不足で一千万人の人が餓死するといわれる状況だった。政府はそれを憂え、緊急に食糧増産を計画し、全国の軍用地を農地化した。そして、食料の供給と軍人や戦災者、失業者、海外引揚者の救済を図った。

大清水の南部地域は、旧陸軍飛行場（約80ha）を含む陸軍演習場（約280ha）であった。そしてこの地にも開拓が計画され、昭和20（1945）年11月、大清水の原野に開拓が着手された。入植者142名は、現在の老津町池上にあった旧兵舎に居住しながら、１ヶ月の入植集団訓練を受け、12月から家族を伴って本格的な開拓生活に入った。翌21年１月には県知事による入植許可証が与えられ、国の委託機関の農地開発営団と個々に開墾の請負契約をした。

松も育たなかった赤土のやせた開拓地（昭和27年）

入植者は土地の仮配分を受けて開拓を始めたが、１～２年の間に23戸が離農した。

しかし、開拓者は努力を重ね、昭和24（1949）年には、大清水開拓農協を設立し、入植者への支援を行った。



昭和20年代中頃の南大清水町農村風景

この間に、入植者の出入りはあったが、離農者址への補充入植者も行われた。昭和38（1963）年ころには、ようやく落ち着き、135戸が定着した。50年ころになると、開拓地も生産をあげ始め、500万円以上の農畜産物を販売する農家が出るようになっていた。

西瓜の出荷風景（後方の建物は旧兵舎「元町103」→大清水分教場→中学校→開拓農協→昭和35年火災焼失）

一方、離農者は昭和50（1975）年までに、その後の離農者も合わせて65戸にのぼり、定着率54％であった。

昭和41（1966）年には、念願の土地登記が完了し、事実上の開拓事業は終わった。40年土地登記につれ官有地から南大清水町と東大清水町が定まった。

校区の発足と南北地域の交流　南部地域の開拓事業は大清水地域の姿を変えていった。そのころから南北の交流がはじまり、昭和27（1952）年には、南北共同で大清水神社の造

営に着手し、28年には遷宮（神殿を建て替える時、神霊を移すこと）、29年に完成へとこぎつけた。またそれまで植田小学校への子どもたちの通学は困難なものがあったため、28年には農林省の援助で大清水分校を建設することができた。

昭和30（1955）年には、共同墓地の目途もたち、31年には託児所の開所、次いで昭和33（1958）年には待望の大清水小学校が開校し、新しく大清水校区が誕生した。

しかし、まだ南北間の住民の交流にはぎこちないものがあった。そんな中で次第に人々の触れ合いが深まり、「親交会」など任意で交流を確かめ合う団体も現れた。昭和40（1965）年には、水資源開発公団の事業として、簡易水道が南北共同で実現でき、水不足に悩んでいた住民を安心させた。

商店街の活気　騒然とした戦後数年を経た大清水は、落ち着きを取り戻した静かな町であった。30年に入って経済成長が始まるまでは、町はさほどの活況にあるわけではなかった。

平成17年の駅踏切付近の町並み

30年代に入ると、紡績工場と南部地域の開拓農家が、それぞれに小規模の町並みや人の気配が漂う集落をつくるようになった。そして、このころから通勤者の住宅の建設がみられるようになった。

昭和52（1977）年に、豊橋南高校の地歴部が、大清水についていろいろな調査をしている。それによると、30年から49年にかけて移住してきた人が顕著である。また、調査の中で、家の新築できた人が36.3%にのぼり、移住の理由９項目のうちで一番多い。

買物動向の調べもあり、それによると、80%の人が町内で買物をしており、豊橋市街へは10.9%となっている。（調査戸数は、992戸のうち回答数409戸、約40%。調査戸数としては不十分であったが、調査戸数の広がりをみると、全地区の傾向を把握しうる調査結果と判断して、計数処理した。とある。）

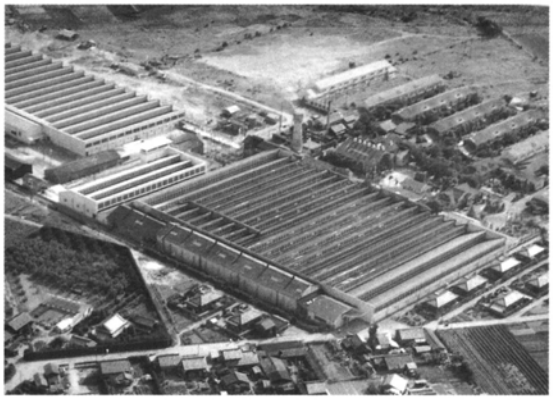
こうしたことから考えると、この時代、すでに町の需要を町内で充たすことができていたと思われる。昭和10年代に一戸の商店の移住から始まった小売業をおもうと、想像以上のものがある。昭和27年ころ、市が打ち出した対策の中小企業組合による発展会は、個々の経営を地区的に組織して、集団による相乗効果（お互いに影響しあいそれ以上の効果をあげる）を経営に役立てようとするものである。大清水でも35年ころ、発展会を結成し、52年に21店舗が豊橋発展会連盟に加盟する。

40年ころの大清水の戸数は544戸であるから、町のにぎわいはなかなかのものであった。

紡績会社の発展と中小企業の活況　紡績会社からかわり、軍需品を生産していた東洋通信機は、戦後ラジオ部品を生産していた。その後、二度の紡績会社へと変り、豊橋紡績株式会社が出現し、業績をあげ始めた。従業員は一千人を越えることになり、豊紡町を形成する。大清水神社の秋の例祭は、若い女子従業員の参加で華やかなものがあった。

30年代の後半から40年に入るころの高度経済成長期になると、すでに大清水で創業していた事業所９ケ所に、他の地域から転地して工場を操業しだした事業所８ケ所が加わり、それらの活動が目立つようになる。40年代か

ら53年には最も多くの事業所（33ケ所）が活動を開始した。



昭和31年時の豊橋紡績工場（現近藤紡績所豊橋工場）

くらしの支え　住民の安心を得るのに最も身近なものが、日々必要とされる医療環境である。大清水には医療機関がなかったから、隣町の植田や老津へその都度かけつけたものである。21年に一時、元町の旧兵舎の一隅で医師が一人居住し、心強いものがあった。まもなく30年代には、駅前地区に診療所が開設され、住民に安心感を与えた。40年代になると本格的な医院が開かれて、地域の医療環境は大いに改善され、住民の生活の支えに貢献(こうけん)することになった。

（4）開けゆく大清水
（昭和40年ころ～昭和末年）

校区の発展　大清水の人口状況は、**大正の末年**に１戸が移住してから、**昭和初期**には７～８戸になり、**昭和20年**ころには、北部地域（大清水町）には18戸と移住者が増え、紡績会社の前に24戸、駅前に11戸建設され移住してきた。

そして、昭和21年ころより、老津、池上の廠舎(しょうしゃ)（兵舎）にいた開拓者142戸が、南部地域（南大清水町）に住み始めた。それ以後の人口は

- **昭和30年（1955）戸数　309　人口　2461人**
- **昭和35年（1960）戸数　387　人口　1761人**
- **昭和40年（1965）戸数　544　人口　1284人**
- **昭和45年（1970）戸数　794　人口　4025人**
- **昭和50年（1975）戸数　998　人口　4596人**
- **昭和60年（1985）戸数 1668　人口　4609人**

となっている。（南部の開拓地は、40年まで国有地のため、戸数に変化は少なかった。35年40年の人口の大幅な減少は、紡績会社の従業員の減少によるものと思われる。）

昭和30年に入って、北部に市街地形成への動きがあり、赤沢街道（現　富士見街道）の周辺に住居が建てられ始めたが、特に紡績工場と街道とにはさまれた区域に、その集中度は高くなっていた。

その発展の一つに考えられていることは、かつての北部地域の耕地整理が畑地中心であったことが、住宅地にむいていたと思われる。

昭和41年開拓地の土地登記が完了すると、南部地域の農地も一般農地なみに移動できるようになった。

昭和43（1968）年、豊川用水の通水により、開拓地の営農は作物栽培が高度化し、専業農家は、各部門の専門化が進んでいった。一方兼業農家も増えていた。農地の宅地化も進み始めた。おりからの農産物価格の不安定、経営の不安、後継者の不足などが、開拓地の土地利用の変動をもたらしたと考えられる。

ショッピングセンターの開店　昭和47年には、豊橋南高校が開校し、50年にはレイクタウンの建設が一層進んでいた。52年12月に大清水プラザが開店した。当時の大清水周辺の小売店の全売場面積より広い売場面積をもっていた。時代を反映した、新しい動きであった。当然、小売店への影響は出はじめたが、小売店の努力は、ショッピングセンターに呑(の)み込まれることなく共存がはかられていた。

町組織の再編と公共施設・金融機関の開設　北部地域（大清水町）は、都市近郊農村の風景を一変させる都市化への過程にあり、市

内、市外への通勤者の住宅地化をもたらした。

また、南部地域（南大清水町）も次第に住宅化へのきざしを感じさせるものがあった。

昭和47年時の県立豊橋南高等学校

こうした校区をおおう都市化への動きにこたえるかのように、町の根幹を成し、将来への発展を予感させるように数々の公共施設、民間金融機関、団体施設、高校の設立など目を見張るような建設の風がまき起こった。

このような校区の状況に対応するように、町組織も大清水地区が４地区に分けられ、各地区からそれぞれ地区総代をたてた。このように南大清水町も４地区、４地区総代、東大清水町は１地区、１地区総代、豊紡町は１地区、１地区総代をたて、きめこまかな組織化がなされた。

人口が増えることは、住民に高揚感（こうようかん）を与えるのだろうか。昭和年代も終わりに近いころには、建てられた公民館による活動も盛んになった。そんな中で、市の「家庭教育推進地区」の指定を受け、校区の家庭教育推進委員会のもと、「ふるさとづくり」の運動が住民の支えにより大きな成果をあげた。

（5）すみよい大清水（平成元年ころ～現在）

のびゆく大清水　校区を南北につらぬく県道、いわゆる赤沢街道（現　富士見街道）に沿って商店街が形成されて、北部からだんだんと南部へとその流れは今に続いている。また、東へと住宅地は拡大し、野依台二丁目として一地区をなし、地区総代をたてた。さらに平成16年南部地区に市営住宅が完成し、校区へ代表をおくっている。発展はとどまるところをしらないかのようである。南部地区（南大清水町）の変化は、新しい町の姿を予感させるようなところがある。大型ショッピングセンター、規模の大きくなっていくパチンコ店、コンビニエンスストアの数々、国道23号線大清水インターの完成が近づくと、それにあわせるように大型病院の進出である。各種病院も増えた。公共施設もさらに増え、金融機関も増えた。住民にとっての利便性は大いに深まった。

便利になった生活の中で　豊橋市の南部の中で、大清水校区には、新しい市街を形づくるようなおもむきがある。また、昭和59（1984）年に大清水校区から分かれていったレイクタウン富士見校区にもそれをうかがうことができる。将来の発展を期待して投資は行われていくであろう。

そんな大いなる変容の中で、平成４（1992）年１月、富士見地区にショッピングセンター「ユーストア」が開店した。大規模店のふたたびの進出は、町の内外からお客を集めた。小売店には、やはりそれなりの厳しさが要求されることになる。平成６年ころの発展会の会員は28名であった。商店街を形成するのに地理的条件は不利であるものの、発展会はその対策をいろいろに模索（もさく）し、さまざまな努力をされ、新しい商店経営が図られている。

豊橋の工業は、戦前から戦後へと零細企業が主体で工業基盤が脆弱（ぜいじゃく）（弱い）であった。昭和28（1953）年末、豊橋の工場で従業員数、千人以上の大規模経営は、豊橋紡績（株）豊橋工場と大日本紡績（株）豊橋工場の二社に過ぎなかった。それほどかつての豊橋紡績は、豊橋において存在感を示していた。

それが、紡績業の不振で繁栄を続けた紡績会社も経営を縮小し、平成15年度で豊紡町は消えた。

昭和44（1969）年、「都市計画法」が施行され、45年には市街化区域、市街化調整区域の線引きが行われた。南部地域は市街化調整地区であったが、農地は次々と消失している。平成7（1995）年に、開拓地は入植50周年を迎えながら、農村風景は失われつつあった。

大清水の開拓地は、全国的にも優良模範開拓地に成長したが、時代の変化は厳しいものがある。農業自体が変革の途上にあるのかもしれない。輸入農産物の攻勢、安全・安心な農産物への取り組みなど、高度な技術が必要とされる。あくことのない技術の向上と経営の合理化が求められていく。

大清水の開拓地が都市化にゆれているのは、近年特にはなはだしい。これはわが国の一般的な中小都市の発展してゆく姿としてとらえられる風潮だけではないだろう。豊かで住みよい豊橋の町づくりにうながされているところがあるのではないだろうか。

昭和30年に町村の合併（1町4村）があり、豊橋市は20万都市になった。豊橋市はこの合併を通して工業地区造成、豊橋港の建設など産業都市豊橋へ脱皮する基盤を確立したと言っても過言ではない。こういった背景をうけ、大清水はその後背地としての役割を期待されている向きがあるのかもしれない。

すみよい大清水へ　時勢の流れは確かに校区を洗っているが、そんな中で、大清水町に寄せる住民の意識は深まっていった。老朽化した神社の再建遷宮は、住民の自由な意思による寄付金によってすべてまかなわれた。将来を見据えた再建計画は大胆に行われ、社殿は大きくなり、境内も広くなった。だが、なによりも遷宮をきっかけに木遣り保存会が発足し、それは最近女性も参加できる新しい姿の会へと発展している。

また、若い有志による手筒花火の煙友会も若者の支持を受け、年々盛大になっている。

祭礼には、しょうぶ太鼓の音が境内に響き渡り、住民の心を高揚させる。

「花しょうぶ」は校区を象徴する花である。毎年6月には、しょうぶ園でしょうぶ祭りが行われ、子どもの写生会、茶会等が催される。

昭和59年に「ふるさとづくり」の運動が起こり、その一環としての活動が絶えることなく続いている。

花壇の世話・「ゴミを捨てない」手書き看板

すみよい大清水とは、便利さだけをいうのではあるまい。日々新たになってゆく町の風景に違和感がなく溶け込めるような、生命感の感じられる町こそ願わしい。そんな町が住民の日々の暮らしの中で自然に育まれるのが望ましい。

長い間取り組まれてきた「ふるさとづくり」は、時代がいかに移っていこうとも、人々の心に残るのは、ありし日の地域の営みであり、世代を越えての人と人との触れ合いである。さらにここで生まれ育った子どもたちへの愛情が大切である。そうした共通の意識を深める努力をしていきたいものである。子どもを育て、自分自身も成長する。そういった「こころざし」のなかで、今多くの行事が執り行われ、私たちのよりよい生活の場を創っていきたいものである。

2　大清水校区の活動

大清水校区の活動テーマは『**心豊かな大清水っ子とすみよい街を育てよう**』である。

(1) 校区総代会

大清水校区総代会は、昭和33年の大清水小学校の開校とともに大清水町、南大清水町、豊紡町を範囲として発足した。校区総代会の目的は、「校区運営に関し、連絡協調して校区の発展に寄与すること」である。

近年における組織の変遷としては、平成３年度に野依台二丁目が校区に加わった。

また、平成４年度からアイシンＡＷが、さらに、８年度には、野依トヨタ住宅が校区に加わった。その後、野依台住宅団地が完成し野依台二丁目が大きな地区になったので、15年度から北と南の二地区に分かれた。

また、15年度をもって豊紡地区が廃止となり、16年８月に市営南大清水住宅が完成し、後期から一地区として加わった。

現在、大清水校区は、大清水町内会（駅前清水、ひばり、本町地区）、南大清水町内会（西元町、東元町、富士見、藤ケ谷、東大清水町、南大清水住宅地区）、野依台二丁目町内会（北、南地区）の三町内会12地区で構成している。

校区内の三町内会には、それぞれ町内会総代会長が置かれている。

校区総代会長は、地区総代で構成する校区総代会において互選により決定する。

校区の副会長は、三つの町内会総代会長があたり、校区総代会長を補佐している。

歴代の校区総代会長は次のとおりである。

・初代（昭和33～37年度）　後藤　常夫
・二代（昭和38～46年度）　河合敬一郎
・三代（昭和47～56年度）　片山　玉四
・四代（昭和57～平成６年度）大林　美也
・五代（平成７～12年度）　小島　　力
・六代（平成13～14年度）　若見　康義
・七代（平成15～17年度）　中田　益雄
・八代（平成18～　　）　仲井　政弘

(2) 校区の発展をささえる各種団体活動

大清水校区では、校区の発展をめざして、各種団体が、役割を分担しあい協力しあって、活発な活動を展開してきた。

その団体を発足順に挙げると、(昭和24) 大清水開拓農協婦人部、(25) 大清水町婦人会、更生保護女性会、(33) 校区総代会、社会教育委員会、小ＰＴＡ、中ＰＴＡ、消防団、遺族会、(35) 発展会、(38～51) 老人クラブ、(39) 親交会、(43) 大清水幼稚園母の会、(45) 体育委員会、(48) 子ども会、(49) 校区婦人会、(53) 大清水町婦人部、(54) 文化協会、(62) 小学校同窓会、(平成１) 身障者部会（４）校区青少年健全育成会、（５）しょうぶの会、(11) 木遣りの会、煙友会、(17) 大清連等である。

なお、町及び校区婦人会、大清水町婦人部は廃止されている。

その主な団体の概要と活動状況は次のとおりである。

大清水校区青少年健全育成会

（発足：平成４年度）

・**会の構成**　校区総代会、青少年育成校区指導員、社会教育委員会、防犯委員、児童委員、保護司、更生保護女性会、ＰＴＡ等。
・**会長**　初代　大林美也　18年度　仲井政弘
・**活動内容**　校区の将来は、青少年の肩にかかっている。校区あげて連携を密にし、青少年に対して素晴らしい環境を提供しつつ、青少年の健全育成に努めている。

○青少年に対する社会環境の浄化　○問題発生を予防するための情報交換、情報活動　○問題行動の早期発見と指導　○「子ども110

番の家」活動の推進　○事故防止

社会教育委員会（発足：昭和33年度）
- **会長**　初代　河合敬一郎　18年度　三石祐次
- **活動内容**　委員会は校区の社会教育、コミュニテイ活動、生涯学習の振興に努めている。

○市社会教育委員会大会への参加　○市民館祭りへの参加　○しょうぶ園祭りの企画運営　○盆踊り、成人式の企画運営

体育委員会（発足：昭和45年度）
- **会長**　初代　西山　釗　18年度　石川晶孝
- **活動内容**　健康は、幸せな暮らしにとって、最も大切なことである。スポーツを通じて体力を増進するとともに、校区民相互の親睦と協調の気持ちを育もうと指導員の指導のもとに努力している。

○「スポーツフェスタとよはし」への参加　○地区体育館フェステバルへの参加　○ブロック大会への参加　○校区スポーツ関係行事（三世代レクスポ大会、元旦マラソン、ソフトバレーボール大会、ふれあい大運動会）の企画運営

消防団（発足：昭和33年度）
- **分団長**　初代　石原和雄　18年度　今泉明洋
- **体制**　分団長以下　17名（定員　17名）
- **活動内容**　安全・安心な生活にとって防火は大切なものの一つである。消防団員は、それぞれに仕事をもちながら校区のために奉仕の気持ちで団を編成し、校区を火災から守るために努力している。

○消火活動　○第六方面隊行事（結隊式放水大会、操法大会、出初式、観閲式）への参加　○春と秋の火災予防運動　○年末特別警戒　○自主防災訓練の指導　○その他、校区主要行事への協力

更生保護女性会（発足：昭和25年度）
- **会長**　初代　大塚ハナ　18年度　杉浦幸子
- **活動内容**　女性としての立場から、地域の防犯予防と犯罪や非行をした人の更生を支援し、犯罪や非行のない明るい地域社会の実現に寄与しようと活動している。

○犯罪予防活動　○更生保護会への協力援助活動　○矯正施設への激励訪問　○赤い羽根　○歳末助け合いへの協力　○青少年問題協議会への出席　○市日赤奉仕団、愛市憲章推進協議会に対する協力

子ども会（発足：昭和48年度）
- **会長**　初代　松井　泉　18年度　竹田浩三
- **単位子ども会**　ひばり、南大清水、本町、駅前、西元町　東元町、清水、野依台二丁目１、野依台二丁目２の９単位
- **活動内容**　子ども達は、家庭と学校と地域で育てられている。地域にあっては子ども会の役割は大きい。今後とも、子ども会活動の盛んな地域（校区）でありたい。

○資源回収（３回）○少年リーダー研修会参加　○ブロック大会参加　○夏休みラジオ体操開催（校区８ケ所）○盆踊りバザー　○お祭り子どもみこし奉納　○ウオークラリー大会開催　○クリスマス会開催　○善意銀行なべ募金活動　○６年生お別れ会開催

老人クラブ
（発足：単位クラブ毎　昭和38～51年度）
- **校区会長**　初代　木田久男　18年度　種田芳基
- **単位老人クラブ**（６単位）
  第一豊松会（本町）第二豊松会（ひばり）柳風会（清水）駅前会（駅前・野依台二丁目）第一きさらぎ会（富士見・藤ケ谷・東大清水）第二きさらぎ会（西元町・東元町）
- **活動内容**　高齢化の進むなか、高齢者が生き甲斐をもって楽しく暮らすことが大切で

ある。シルバースポーツに積極的に取り組むとともに、高齢者同志が声を掛け合う等、活発な活動をしている。

○シルバースポーツブロック大会・市中央大会への参加『大清水チーム、平成４・15年度中央大会でゲートボール優勝』　○一声運動強化週間（高齢者同志の訪問）　○友愛訪問（寝たきり老人への訪問）　○校区行事（三世代レクスポ大会、ふれあい大運動会、ウオークラリー大会）への参加

大清水小学校ＰＴＡ（発足：昭和33年度）

・**会長**　初代　後藤常夫　18年度　森　康成

・**活動内容**　大清水っ子が健全に育つためには、学校とＰＴＡと地域（校区）との連携が大切である。小学校ＰＴＡは、学校への積極的な協力と広報活動の充実をめざして活動している。

○一品寄付即売会　○資源回収（３回）

○ＰＴＡ新聞「ともしび」の発行（３回）

○大清水っ子カレンダーの作成配布

文化協会（発足：昭和54年度）

・**会長**　初代　手塚典成　18年度　山本勝康

・**活動内容**　文化活動に参加して楽しみながら友達を増やしていくことは大切なことであり、ひいては、地域（校区）を明るくするもとになる。そのため協会は活発に活動している。

○校区文化祭の開催（芸能大会）○しょうぶ祭りに協賛（踊り）○お祭りに協賛（踊り）

(3) 結びつきを深める各種行事

しょうぶ祭り　昔、天然のノハナショウブが藤ケ谷の湿地に咲いていた。湿地が軍用地になってノハナショウブは失われてしまった。それを惜しんで南稜地区市民館の隣地で花しょうぶを育てようということになり、昭和59年度から校区民が一致協力して造園に励んできた。

その甲斐あって見事な花が咲くようになり、しょうぶ祭りが、６月の第１土・日曜日に開催されるようになった。社会教育委員会の抹茶の接待、写生会、しょうぶ太鼓の演奏、木遣りの演技、踊りやフラダンスの披露等がある。

また、平成13～15年度、「地区市民館地域交流事業」として「写生会」が同時開催され、幼児・児童の参加が増えた。現在写生会は社教が世話をしている。しょうぶ園祭りは、年々盛大になっている。

しょうぶ園案内　６年　船田　恵

三世代レクスポ大会　年寄りから子どもまでが一堂に会して、レクレーションスポーツを楽しみながら「ふれあい」を深めることができる行事である。

大清水地区体育館がオープンして２年後の平成８年度から始まった。毎年度、６月に開

三世代レクスポ大会　６年　光友　熙隆

催している。

競技は、チーム対抗（5名）でグランドゴルフ、ダーツ、輪投げ、ペタンク等に挑戦。

大会の企画運営は、体育指導員の指導のもとに体育委員が担当している。年々参加が増え、17年度には85チーム、約600名の参加があった。

盆踊り大会　小学校の校庭で盆踊りを開催している。その企画運営は社会教育委員会であるが、子ども会をはじめ各種団体やボランテイアで踊りを指導してくれる人等の協力を得て担当している。

盆踊り大会（平成17年8月）

当日（17年度は8月13・14日）は、子ども会のバザーとしょうぶ太鼓が大会を盛り上げてくれる。夏の夜空の下、輪になって踊る「ゆかた姿」は、平和そのものである。踊りの曲目は、「大清水音頭」をはじめ成人用は「豊橋音頭」「新とんとん踊り」等を、子ども用には「さざえさん」「一休さん」「どらえもん音頭」等である。でも、大人も子どもも一緒に踊る。

ふれあい大運動会　平成17年度には、第32回を迎えた。

9月上旬の日曜日の開催が恒例である。

当日の運営は、体育委員が総出で大活躍である。競技は、地区対抗の競技とそれ以外の競技とに分かれる。地区の競技としては、綱引き、ボール運び、玉送り、大縄飛び、ムカデ競争、年代別リレーである。その他に親子

ふれあい大運動会（平成17年8月）

競技、玉入れ（子どもと老人クラブ）、ジャンケン（全員）等がある。参加人数は、選手応援団合わせて各地区ともおおよそ100名、全体で700名を超える一大イベントである。地区によっては、特に高齢化の進んだところもあるので、その対応が今後の課題である。

大清水神社のお祭り　秋のお祭りは、毎年10月の第一日曜日を本祭りとして行われるのが恒例である。

祭りの企画運営は、校区祭礼委員会のもとに行われる。委員長は、委員の互選であり、平成18年度の委員長は、西山　釗氏である。

委員長を補佐する副委員長、警備班長、行事班長を置き、円滑な運営を期している。さらに、消防団や看護師さんの協力を得て、事故防止と対応に万全を期している。

なお、校区内の三町（大清水町、南大清水町、野依台二丁目）には、それぞれ祭礼委員会が組織され、軒花の配布、山車の飾つけと運行等を執り行う。

一宵祭り一　早朝、3発の昼玉があがって祭りが始まる。午後、それぞれ町内会の山車と子ども御輿が町内を巡回して神社に向かう。

夜になると手筒や乱玉花火の奉納が始まる。新しいお宮のご遷宮をきっかけに煙友会が設立され、手筒の奉納が始まった。奉納される数も年々増え、手筒が30本を超えるよう

になった。火の粉が吹き出し、ドーンと筒の底が抜ける。緊張が一度に解かれ、拍手喝采がわきおこる。

お祭り（平成17年10月）

一本祭り一　早朝、３発の昼玉が本祭りの始まりを伝える。各町の山車や子ども御輿が町内を巡回しながら神社に向かう。

神事が始まる。校区の発展とお祭りの無事を祈願する。

神事の後、子ども御輿が元気よく奉納される。また、木遣りやしょうぶ太鼓の奉納がある。その他いろいろと余興があって、最後に紅白のもち投げ、くじ引きがあって、神社境内での祭礼行事は終わる。

山車、御輿がそれぞれの町内会に戻り、子どもにお菓子が振る舞われて祭りが終わる。

ウオークラリー大会　秋の盛りの10月下旬から11月上旬の土曜日に大清水神社に集合して、朝９時にスタートする。コースは、「しあわせ地蔵」（第三章教育と文化Ｐ32参照）までの往復約６キロメートルである。

ウオークラリー大会　６年　島崎ひかる

大会の企画運営は、子ども会が担当する。大会には、５名でチームを組んで参加する。コースの途中でジャンケンゲーム、サイコロゲーム、クイズ等を競い合いながらお地蔵さんめざして歩く。皆そろってお地蔵さんにお参りして帰路に着く。この日には，総代会や老人クラブも組を組んで参加する。

ゴールでは、豚汁のサービスがある。

元旦ミニマラソン大会　元旦の朝、ミニマラソン大会が体育委員会の世話で開催される。大清水神社をスタートして約1.9キロメートルのコースを一周して神社に戻る。元気な子ども達を先頭に足に自信のある人、ない人、それぞれマイペースで駆ける。毎年、100人を超える参加がある。ゴールには、豚汁や甘酒のサービスが待っている。

成人式　大清水校区の次代を担う新しい成人を校区あげて祝福する成人式は、社会教育委員会の企画運営で小学校体育館において開催される。新成人は、晴れやかな姿で満面に笑みをうかべて出席してくる。

成人式（平成18年１月）

校区総代会長と小学校長から祝辞をいただき、新成人からは、誓いのことばと交通安全宣言がある。続いて記念写真を撮る。

新成人の司会でお祝いのパーティが始ま

る。小学校卒業時の担任だった先生に花束の贈呈があり、思い出話や近況報告などでにぎやかに会は進んでいく。なお、18年の成人参加者は46名（該当者61名）であった。

（4）安全・安心な町をめざして

交通安全について

・交通安全モデル地区の指定

昭和44年度に「交通安全モデル地区」に指定された。それを機会に交通安全を広く校区に浸透させようと「総決起大会」「交通安全パレード」「交通安全モデル地区発表会」等が開催された。

昭和45年10月５日に愛知県庁において「大清水交通安全ママさんの会」に対して県警本部長と県交通安全協会長から感謝状が贈呈された。

児童登校と交通整理（平成17年12月）

・交通安全立ち番の実施

春、夏、秋、年末の「交通安全市民運動」の期間には、総代会、小学校ＰＴＡ、小学校職員が交通立ち番を行っている。

また、交通事故「０の日」には、各種団体が協力しあって立ち番を行っている。

防火・防災について

・消火器の街頭配備

「化学泡消火器」を各地区所定の位置に配し、火災に備えている。

・避難所・応急救護所

校区の第一避難所は、大清水校区市民館と南稜地区市民館であり、第二避難所と応急救護所は、大清水小学校である。

・自主防災会の活動（昭和54年度発足）

自主防災会のスローガンは『自分たちの町は、自分たちで守ろう』である。

自主防災会の組織　大清水校区防災会連絡協議会は、各地区自主防災会（駅前、清水、ひばり、本町、元町、富士見、藤ケ谷・東大清水、野依台二丁目）の８防災会で構成している。

各自主防災会の役員構成は会長、副会長、防災指導員、班長（情報、救出救護、消火、給食給水、避難誘導）等で構成している。

防災訓練　災害発生時に、冷静かつ的確な判断をもって、組織的な活動ができるように訓練しておくことが肝要である。

大清水校区では、毎年度、秋の一日、校区防災会連絡協議会のもとに、消防団の協力を得て各地区単位で防災訓練を実施している。訓練内容は、被害調査、救出救護方法、初期消火等である。

当日、各防災会は、校区防災会連絡協議会本部に被害状況及び訓練参加者の報告を行う。年によって、地区防災訓練の後、小学校の校庭で起震体験をする。

防災訓練　６年　岡本　　瞳

感謝状　大清水校区防災会連絡協議会は、平成16年３月「多にわたり、積極的に防災活動

に取組み、地域社会の安全に大きく貢献した」として、豊橋市長から感謝状が贈呈された。

・婦人会の防火活動

昭和50年ごろ、校区婦人会は防火活動に熱心であった。昭和47年３月「防火クラブ表彰」があり、大清水校区が表彰された。

また、消火競技大会では、優秀な成績をあげた。昭和49年と51年の「初期消火競技大会」において校区婦人会が優勝した。

防犯について

・防犯パトロール

安全・安心な暮らしができるようにと市と関係機関が毎月15日を「地域安全防犯の日」と定め、地域安全活動を推進している。大清水校区も各種団体が協力して積極的に防犯パトロールに取組んでいる。また、夏休みと冬休み中も、各種団体が協力してパトロールをしながら「愛の一声運動」を展開している。

また、17年度から、青色回転灯パトロールを開始した。

平成18年１月11日、愛知県豊橋警察署長から、大清水校区総代会に感謝状が贈呈された。「安全で安心なまちづくりの実現に大きく貢献した」と。なお、大清水校区の安全安心度は非常によく、市内52校区中７番目である。

・こども110番のいえ

豊橋警察署は、平成10年度から「こども110番の家」（19軒）の依頼を始めたが、校区でも同年度から子ども達の安全を確保するために青少年健全育成会長の名で「こども110番のいえ」（215軒）をお願いしている。

(5)「校区の活動」のまとめ

以上が、校区の活動のあらましであるが、大清水は若い町であり、古い慣習のない校区であることがわかる。主に、戦後、町民みんなでつくりあげてきた校区である。先人たちのなみなみならぬ「まちづくり」への活力と行動を知ることができる。関係者に感謝と敬意を表わしたい。

なお、諸般の事情により、大清水校区には、次の地域の一部世帯が加入されている。

・老津町字新地　・大崎町字境松
・野依町字西新切　同字西山
・富士見台一丁目

また、特に忘れてならないのは、日ごろ、行政と校区との橋渡しとなって、校区内の諸団体と協力しながら、辛抱強い活動を続けている人々の存在である。それは、民生委員、児童委員、保護司、少年補導委員、交通安全推進員、交通安全指導員、体育指導委員等である。さらに素晴らしいのは、行政、校区役員と学校との連携が大変に密であり、円滑な運営や活動を図っていることである。

時代の進展とともに、校区への要望や活動も多方面になってくる。特に町民の安全や安心を図るうえからは、防災や防犯への取り組みが校区民あげての課題となってくる。また、「校区の理想像」の実現については、まず町民が大いに話し合うこと。そして、多くの人々が校区の活動に参加することが望まれる。それが新しい時代への対応であり、最も大切なことではなかろうか。

ふるさと大清水駅看板がき　６年　糟谷　俊枝

3　大清水神社

神様をまつる　大清水校区に石器が発見され

ていることを思うと、古代のひとたちが、獲物を求めてこの台地をかけまわっていたことは容易に想像できる。

大雨がふり、大風が吹き、雷がとどろいた時もあったに違いない。森があれば好都合なこともあったであろう。私たちが知るかつてのこの地は、果てしない荒れ地で、小松や潅木のかげにわずかな草が生い茂っていた土地柄であったと思われる。自然の暴威（乱暴な威勢）に恐れ、心の支えに、神に頼ろうとする。そんなとき、森のしじまに神をまつり、ひそかな祈りを奉げる。そんな想像もするが、はたして古代から現代まで、この地は木々も育たないところだったのだろうか。

ひらかれた大地に　大清水がひらかれた時、それは現代になっていた。われわれの前にはやはり荒野の果てしない大地が、視線のはるか先までひろがっていた。

先人たちは、ここに神を迎えようとした。この地は明治になって御料林となる。のちに陸軍の演習場、飛行場と様子が変っていく。

戦後、すべての地は開拓地へと再び変り、すでに７年がすぎていた。神社創建は、大清水町、南大清水町の有志、開拓農協と豊橋紡績（株）の多大な協力を得て、昭和27年に計画され、28年（1953）10月１日に遷宮、29年に完成された。御神体は大清水町側では、あまりこだわりはなかった。南大清水町側は、住民の要望を採った。伊勢神宮（天照大神）が一番多く、最終的には伊勢神宮になったが、以下の希望があった。熱田神宮、津島神社、豊受大神宮、出雲大社、伏見稲荷、キリストであった。祭神候補にキリスト教があるとは驚きであるが、違和感なくうけとられていた。その時の雰囲気に流されて、まとまる協調性とは違う住民の自由な気分や素直な気持ちの表れが、そこにはあったように思われる。

旧陸軍の注掩体壕は13mの高さがあったが、その高みよりやや低いところに建てられた神社は、年を経るごとに木々が生い茂り、趣を増していた。ただ、神社の経営は厳しかった。校区からの援助がなければ維持することは難しかった。

昭和63年（1988）12月16日、認可（平成元年２月４日登記）法人化され、資産の所有は明確にされた。

注　**掩体壕**について　かつて神社境内（元町66－３）の一部を囲んでいた、旧陸軍の飛行機や建設重機を被爆から守るように築かれた土山。造営のために取り崩す。

大清水神社全体風景（平成17年）

新たなこころみ　神社が建てられてから40年にもなり、老朽化がすすんでいた。また、拝殿のないことは従来から非常に不便であった。法人化の際、拝殿を建設するよう、神社庁から要望されていた。

平成６年（1994）、神社造営の気運が高まり、造営委員会が設立された。５年がかりで寄付資金を積み立て、また篤志寄付も仰ぐことにした。まず寄付は自由意志によることを明らかにした。同年10月から月500円の寄付をお願いし、５年間積み立てることにした。寄付の積立とは別に、平成９年から篤志による寄付を仰いだ。多少の理解の行き違いもあったが、寄付金の集まりは、委員会の予想を超え7,700万円余に達した。

資金の使用の基本は、すべてを委員会のお金としてあずかることにした。ものに対する

寄付の申入れ、またそういったものへの寄付者氏名の表記は一切おこなわないこと。ものへの寄付はお金に換えていただくこと。委員会がすべて取り仕切ることにした。

寄付者の氏名は、寄付金額順にせずに地区ごと、組ごとに記し、拝殿に掲げた。

こういった寄付金の取扱い方は神社仏閣では、少ないようである。

祭りは心のふるさと　平成11年の遷宮（10月1日本遷座祭・2日奉祝祭、木遣り、稚児行列・3日秋の例祭）には稚児行列が行われた。神社初めての稚児行列の参加者とそれを中心となって支えた町内関係のみなさんや、神社関係者の努力には熱いものがあった。待機場となった小学校体育館は、喧騒に包まれ、熱気にあふれた。稚児500人（男児210人、女児290人）町内外を問わず、県外からも子供や孫が参加した。親族を含めると1,500人は超えていたであろう。それに支援の人を合わせると2,000人に近い大集団であった。一切の混乱もなく滞りもなく執り行われたことは、驚異的なことであった。参加した稚児たち、親たちは生涯わすれないであろう。

また、木遣りの奉納も行なわれた。参加者62名は午前7時30分、大清水プラザ駐車場集合、出発。各地区を回り、神前で奉納、その演舞は力強く、勇壮であり地鳴りがするような足踏みは神に奉げるにふさわしい舞姿であった。祭礼後、木遣り保存会として発展が図られることになった。

この神社造営による遷宮は、校区に多くのことをもたらした。住民が一つにまとまり盛り上がったからである。いわば自然発生的に創建されたおもむきのある神社は、しっかりとこの地に根づき、鎮守としての存在感を示したからである。

これからこの地域の支えになろうという若い有志から、手筒花火を打ち上げたいという申出があり、打ち上げに伴う手続きや費用はすべて自分たちの責任の上で執り行うという。

意欲的な若者が集まりだしたのである。夜空に花開く美しさは身近に目にする住民を喜ばせた。花火は「大清水煙友会」を発足させた。

また、平成17年には、もう一つの若者の集団が「大清連」を結成し、地域への関心をたかめ、祭礼への協力、参加をはじめた。

神社を通じて、一つ二つと大清水の住民へ交流をうながす発信が始ったのである。境内は人々の触れ合いの広場となり、鎮守の手によって守られ導かれるのであろうか。

鎮守の姿　神社が鎮守の神として認められるようになると、神社も変っていくであろう。

神社運営の経理が変った。校区自治組織からの援助としての神社費はなくなった。校区の住民は、氏子としての立場から運営費を拠出することになった。宗教法人としての神社の姿になったのである。ただ、奉賛会などの組織を持たないので、町組織の援助で集金やら祭礼に協賛をお願いしている。

荒れた地は、ひらかれ、育まれて歴史を刻んでいく。心安らかな地が誕生し、ふるさととして人のこころに記憶されていく。そんな清らかな大地を大清水は目指していくだろう。

昭和31年時の神社と祭礼関係者

第3章　教育と文化

1　地域の子育て

(1) 大清水小学校（南大清水町字元町78）

現在の大清水小学校は、豊鉄大清水駅より徒歩７分、東南方向にある。近くには神社、幼稚園、地区体育館、南部地域福祉センター等がある文教地帯で学びによい環境である。

学校規模は、敷地13.785㎡内の南西側に校舎（4,400㎡）とプール（328㎡）、東南側に体育館（644㎡）、北側に運動場（6,848㎡）がある。

児童数507名、学級数17、職員27名の中規模校（平成17年４月）である。校区は大清水町、南大清水町、東大清水町、野依台二丁目の４町で構成している。

大清水小学校正門横の庭園内に、昭和62年、校区30周年記念の一つとして、子どもの健全育成を願って建てられたブロンズ像『巣立ち』（北村誠一氏制作）がある。この像は男女二人の子が、それぞれの手に鳩を持ち仲よく立っている。その手のひらから鳩が飛び立とうとしている。そして、このブロンズ像の台には**「温かい家庭の和と大きな校区民の輪で心豊かな明日の大清水っ子を育てよう」**と刻（きざ）まれている。

小学校の主な歩みは、昭和21年　植田国民学校大清水分教場（１～３年、児童100名　学級２　職員３名）で開設。同24年大清水分校。町民の念願がかない同33年大清水小学校（児童212名　学級６　職員９名）として開校する。校区は大清水町、南大清水町、豊紡町の３町で構成。同40～50年代に住宅化が進み、同58年には児童932名　学級24　職員33名と増加。同59年大清水小学校（13学級）と富士見小学校（14学級）に分離。平成６年野依台二丁目が大清水校区に編入。小学校は児童279名　学級11　職員19名になる。

小学校開校に至るまでには、校区民の熱烈な願いや要望、はたらきかけがあって開校への道が開けた。歴代の小学校長は次の通り。

・初　代　昭和33～35年度　伴　延二
・二　代　昭和36～39年度　浦野　貞雄
・三　代　昭和40～41年度　豊田　敏雄
・四　代　昭和42～43年度　青山　光二
・五　代　昭和44～46年度　白井　覚
・六　代　昭和47～48年度　藤原　繁男
・七　代　昭和49～52年度　佐野　榮次
・八　代　昭和53～55年度　大羽　榮
・九　代　昭和56～59年度　野口　章
・十　代　昭和60～62年度　三田　勝啓
・十一代　昭和63～平成２年度　中島　重夫
・十二代　平成３～５年度　西郷　平
・十三代　平成６～７年度　山田　和房
・十四代　平成８～11年度　佐野　弘三
・十五代　平成12～16年度　藤城美里子
・十六代　平成17～　三宅　泰明

大清水小学校全景

ブロンズ像「巣立ち」

大清水小学校の研究や教育活動の主なものは、昭和38／39年の**道徳教育研究**をはじめとして、**交通安全指導研究、学習指導研究**「あすをつかみとる力を」、**生徒指導研究や、家庭教育推進研究**「心豊かな大清水っ子を育てよう」、**ＰＴＡ活動研究**「心を豊かにする推進事業―進んで学習する子どもを育てる」、**現職教育研究**「心のふるさと大清水」の発行、**平成13～15年、幼・保・小連携推進研究**「自立する子をめざして…人とのかかわりを大切にした活動を核にして」等をテーマに研究。子どもの学力の充実や健全育成の推進、指導がされてきた。

研究の歩みを概観すると、開校当初の**昭和30年代**は小学生全員が近くで共に学べる喜びと地域の中での学び舎に町民の安心感がうかがえる。関係者は落ち着いた環境づくりに努める。**同40～50年代**は基礎学力充実や心豊かな子の育成、躾（しつけ）教育のあり方を研究する。また校区民一体となり各種行事を実施し、校区民との交流、安定化を図った。**平成時代**になると、親の価値観の多様化や激しい社会状況の変化に対応する教育活動が求められ、同13年から３年間「かかわりあう力」を育てる教育研究をする。

学校本来の学力の定着、時代の変化に対応した研究がテーマになっている。また学校・家庭・地域の三者がよく連携し、素晴らしい活動をしてきている。

大清水小学校のめざす子ども像は、

大らかに
清らかに
- ◎よく考え進んで学ぶ子
- ◎健康でたくましい子
- ◎仲よく助け合う子

を校訓に掲げて指導している。この教育目標は昭和57年に校名「大清水」の頭文字を生かして考えられた。平成３年に一部手直されて現在の教育目標になったとのこと。学校関係者の校区への強い思いがうかがえる。

この三点（◎印）を身につけることは**「自立する子」**の育成でもある。その具体的な学年行動目標を要約すると**「◎自分の考えをしっかりと持つ　◎相手を尊重し、協調できる子」**を育てること、それが**「自立する子」**であると考え指導されている。

学習活動の一つに**総合学習**がある。大清水の歴史や現状を学んだり、地域の先輩の体験談を聞いたり、環境美化や呼びかけの看板作りをしたりして、地域を理解し愛する心を育むようにはたらきかけている。

道徳や児童会活動で「ありがとう運動」も実施。学級で「今日のありがとう」を、学校全体で指定月にキャンペーン運動を。またお世話になった地域の人に感謝の会を開催。感謝の気持ちを育てること、人とのかかわりの大切さや楽しさ等を育てている。

「思いやりの心」を育てる一つに、あいさつ運動や１～６学年が一緒になった活動、仲よし集会や運動会応援合戦等の異学年交流活動があり、大きな力になっている。

大清水小学校の特色ある活動のひとつに**「レモンの会」**がある。核家族化と少子化のために、お母さん方の子育て支援・相談の会である。レモンのようなさわやかな気持ちで子育てができるよう、心得等を専門家の体験談を通して学ぶ会を開催している。お母さん方に安心と自信を持ってもらう配慮である。

特色の二つ目は**スクールボランティア**である。読み聞かせの会の「ぶらんこ」、語り聞かせの「ろうそくの会」。地域の力の効果的な活用と言える。地域の中には特技を持っている人がいる。その人を講師に親子で物を作る会**「ふれあい教室」**や図書管理をする「ポケット」等がある。また始業式・終業式に校区の諸先輩からお話を聴く「ようこそ先輩の会」もある。地域の人々や親のよさを知ると共に、特技のある人への尊敬や、感謝の心等を培っている。特に地域の方々や親と作業する「ふれあい教室」は、地域や親を知るよい機会で、児童に喜ばれている。

ＰＴＡ活動は子どもの成長を願った活動である。また健全育成に貢献することが大きい。各種活動にも校区民も協力的であり「資源回収」を年３回実施。一品寄付バザーも校区運動会時に開催。町民には人気の行事のひとつになっている。

また、**昭和40～50年代**にかけて校区・ＰＴＡで環境整備作業を行っている。その主なものは昭和49年の体育館横庭園作業や同59年の車回し庭園作業等がある。

学校、家庭、地域を結びつけるのは「広報・情報」である。学校もＰＴＡも校区もよく情報を提供している。学校だより**「わきみず」**は平成10年より年３回発行、市の要請の学校新聞**「大清水」**は同12年より年２回（全校区へ）、ＰＴＡ新聞**「ともしび」**は年３回発行している。子どもの家庭には学校・校区の年間活動を一覧表にした「大清水カレンダー」を配布し、周知徹底を図っている。

今日の大清水は静かで落ち着いた校区。家庭も安定している。子どもも親も明るく素直で、あいさつもよくできる。家庭も地域も学校行事等に大変協力的である。また学校も家庭や地域と一体となった健やかな子どもの成長に努めている。

これまでの関係者の「すみよく明るい大清水」をという強い思いが伝わってくる。「学校を訪ねた人からは『大清水の子は、明るく、素直で、あいさつもよくできる』と言われ、ありがたく素晴らしい校区です」と先生方。

また「家庭が安定しており、校区も協力的でありがたいことです」と先生方の感謝の一言が印象的であった。いつまでもそうあってほしい。

テーマである「基本的生活習慣の育成」「自立心と思いやりの心」をさらに育み、成長するにしたがい「ふるさとの人・自然・ものに感謝し、ふるさと大清水を愛し続ける」人に成長してもらいたい。時代は変わろうともこのテーマはいつまでも継続されなければと考える。健やかな子どもが育ち、21世紀を強くたくましく生きてほしいと願う。

親子ふれあい教室（平成16年）

（2）大清水幼稚園（南大清水町字元町66）

今の大清水幼稚園は、大清水神社の西側の敷地2,947㎡に、園舎（普通教室９、特別室２［遊戯室・教材室］）を有する鉄筋２階建て。近くには小学校もある。職員は、理事長兼園長はじめ12名で運営。全学級数７、３歳児41名、４歳児40名、５歳児53名、全園児143名（17年７月１日現在）である。保育時間は９～15時まで（土曜日は12時まで）。送迎は原則親が責任を持って行う。

大清水幼稚園の歩みのあらましは、昭和31

年、大清水託児所として開設。地域や大清水開拓の人々から頼まれ、理事長が託児所として設立。最初は幼児20名を木造家屋で保育。無認可のまま幼児教育の場として地域の要望に応える。厳しい経営の中で、幼児数増加のために増改築を繰り返す。保育園としての認可を申請するも、地理的条件が満たされず不許可となり、幼稚園として条件整備に努める。

昭和43年、大清水幼稚園として認可される。校区内への転入者や富士見台の住宅化により、毎年入園児が増加する。昭和59年富士見校区が分離独立する以前の40年代は、園児の増加が激しく最高330名にもなる。57年までは7回の増改築や運動場の拡張等を行い、園舎、施設、設備等を完工する。

このような歩みを経てきた現在の大清水幼稚園は、「集団生活になれさせ、みんなと仲良く遊べる心と体をつくることを目的」（入園のしおり）とした運営や教育がなされている。

具体的な教育目標は**「◎あいさつのできる子　◎へんじのできる子　◎くつをそろえる子」**を**「大清水幼稚園しつけ三原則」**としている。卒園までの3年間に、基本的生活習慣を身につけさせること。特に、3歳児は「返事、排泄、食事」を、4歳児は「あいさつ、くつをそろえる」を、5歳児は就学前の準備として「楽しく遊ぶ、話を聞く、我慢する」を身につくよう重点的に指導している。

また、大清水幼稚園が長年継続指導している特徴は、5歳児が週1回毛筆習字を習っていること。全園児に園長先生のお話を10分間ほど正座で聞く会が週2回ある。これは①楽しい場づくりと聞く習慣の育成。②日本の伝統的文化の一つに、小さい時より親しませる。③心落ち着かせて物事に取り組むことができるよう願っているとのこと。

1年間の主な行事は、4月の母の会総会を始め、母の日（バザー）、保育参観、父の日参観、七夕祭り、運動会、遠足、幼稚園祭、焼きいも集会、七五三、発表会、クリスマス会、節分、ひなまつり、お別れ遠足、卒園式等を実施し、楽しい幼稚園づくりと心身の健やかな成長に努めている。理事長さんの今日までのご尽力に敬服。「子どもが好きだからできたのです」「これからは親も子も我慢することが大切です」との一言が心に残る。

(3) 市立こじか保育園（植田町一本木116の151）

大清水校区から毎年40余名が通っている。

こじか保育園は昭和49年4月に開園。17年4月現在、職員25名。園児は0歳児3、1歳児12、2歳児22、3歳児41、4歳児39、5歳児42の159名（定員150）。開園は午前7時45分より午後7時まで。

特色は　①延長保育　午後6～7時まで。定員12名。②一時預り。③障害児保育5名。④子育て支援として　ア、**ふれあい教室**　月2回　南稜地区市民館を利用して保育士が行う。定員20名。イ、**園庭開放（ばんび）**毎週木曜日親子で参加。11時30分まで。園長さんは「地域の方、自由に遊びにきて保育園を知ってください」と解放的な姿勢。また働くお母さんや子育てに悩んでいる人の相談も行っているとのこと。保育の難しさや大変さを実感する。また、保育園は家庭と連携を密にし、親とともに子どもを育てることを大切にされていると感じた。その熱意に敬服する。

ふれあい教室　6年　赤崎　仁美

2　社会教育とコミュニティー活動

私たちは、急激な社会的・経済的変動の中で暮らしている。生活は物質的には豊かになったが、心の面ではゆとりも豊かさの実感も薄れつつある感じがする。こういった生活環境を一度見詰め直し、私たちの生活の場をより幸せなところへと導いていきたい。

社会教育とコミュニティー活動の目標　「コミュニティーが快適でやすらぎとうるおいのある地域社会の創造をめざしているのに対して、**社会教育**は教育活動を通じてひとり一人の能力を高め、終局的には、生きがいを見出せる住みよい社会をめざしています。住みよい社会づくりをめざしている点では一致しています。」といわれている。

このように社会教育とコミュニティー活動の目標は、上記のとおりであるが、大清水校区社会教育関係の活動のあしあとを紹介したい。

(1) 社会教育委員会の誕生と使命

社会教育委員会の誕生　豊橋市は、昭和22年に各校区に対し、校区社会教育委員会を自主的につくるように要請した。それを受けて、翌23年から市内各校区に委員会が設置された。昭和24年には、豊橋市校区社会教育委員会連絡協議会が結成された。校区委員会間の連携を密にするとともに協議会としての活動が開始された。

大清水校区では、小学校の開校の年（33年）に委員会が発足し、前記の連絡協議会に加入した。

校区独立以前は、植田校区の大清水地域としての社教はあった。独立するまでは千種清一氏と木田久男氏が代表をつとめていた。他校区より約10年遅れて出発した。

しかし、その後の活動は、他の校区に劣らない活発なものがあった。昭和44年、第10代豊橋市校区社会教育委員会連絡協議会長に、大清水校区から鈴木嘉平氏が、また、昭和55年、第15代会長に、同じく校区から大林美也氏が選出されている。

自分たちの地域を、自分たちの考えで、明るく住みよい町に作りあげていくことは容易ではない。社教委員の役割は重大で困難なものだった。設立当初は、講演会、映画会などを開催するのが活動の中心だった。次第に、各委員会の自覚が高まり、自主的に行事を計画し、内容が豊かになっていった。その考え方の根底は、「地域住民の向上とよいコミュニティーをつくるために貢献したい」という意識にある。

この意識は、その後大清水社教に受け継がれ、昭和59・60年の県・市指定の『家庭教育推進事業』で大きい成果をあげた。もちろん、この事業は大清水校区あげての実践だから、校区総代会がその推進母体であるが、その中核になったのは社教委員で、事業のさまざまな部門で活躍する。

社会教育委員会の使命感と誇り　社会教育委員会は、「盆おどり」や「成人式」等の校区の主要行事を準備したり進行したりする役割も担っている。

委員は、総代より一回り年齢の若い、最も働き盛りの年代がほとんどである。

この年代の人たちは、この後も、地域の仕事にかかわり続ける時間を持っている。委員の仕事を通じて知った地域への奉仕と、それによって得られた満足感はさらにボランテアの活動にも心を向けさせる。

これが、いろいろな所で目立つことなく黙々と奉仕する働きになっている。これは社会教育委員として働きたいという誇りが基になった。

(2) 社会教育委員会の活動

校区民啓発のための企画　大清水校区では、校区が発足して10年から20年目を迎えたころ、校区民の意識啓発をねらいとした次のような企画がもたれた。

- **昭和46年３月　社会学級閉講式**　議題：『大清水の将来を語る』　オブザーバー：市大村社教課長　出席者：各種団体長
- **同46年６月　コミュニティースクール開講式**　テーマ：『話合い助け合いですみよい町を』　議題：『大清水の現状と未来について』　出席者：各種団体役員等多数
- **同50年７月　大清水地区子どもを守る校区民会議**　議題：『児童生徒の生活指導について』　発言者：片山校区総代会長　高柳中学校ＰＴＡ会長　西山小学校ＰＴＡ会長
- **昭和52年11月　文化の日**「豊かな町づくり」をテーマに次の三つの行事を行った。

校区大行進を行う　好天のもと、小学校鼓笛隊100名を先頭に総代会、各種団体役員が「文化の町大清水」「交通安全」「よい子はよい家庭から」等のプラカードを掲げて、駅から地区市民館まで、300余名による行進を行った。

作品展の開催　児童から高齢者の作品500余点が地区市民館を使って展示。文化サークル結成を記念して書道、手芸、盆栽サークルの人たちが出品。郷土史サークルの写真「大清水20年の歩み」が大好評であった。

芸能大会の開催　民謡、詩吟、民謡サークルが中心となり、各種団体からも多数の出品があり、盛大であった。

しあわせ地蔵の発見とまつり　昭和53年４月、豊橋市校区社会教育委員会連絡協議会が、「ふる里をみつめ、あすの豊橋をつくろう」というテーマに取組んだ。その際「校区内でなにか由緒あるものはないか」とたずね歩いたところ、東大清水町でお地蔵さんの話を聞いた。

その話というのは、入植してみると一本の松が生えており、その根元に野ざらしのままお地蔵さんが置かれていたそうだ。当時、伊古部の古老から、お地蔵さんの松を折ったりすると良くないことが起きるという言い伝えがあると聞いたそうだ。その後、その場所は、一入植者に配分され、更に転売され、その内に耕地整理が始まったが、買った人は地蔵の由来を知らず、ブルドーザーが入って松は倒され、お地蔵さんは田んぼに投げ込まれた。その後、お地蔵さんは、拾い上げられたが、もう松はなく、すすきの根元に埋もれるように置かれている。という話であった。

その話を聞いた当時の社教委員会は、早速、地元の協力を得てお地蔵さんの安置を社教委員会の活動として取り上げることにした。

安置する場所は、地元で最も見晴らしの良い場所にすることにした。幸い土地の所有者が土地を提供してくれることになった。

しあわせ地蔵

昭和53年10月16日、秋晴れの下、地元と社教委員会でお地蔵さんを建てる場所造りをし、お地蔵さんは無事に安置された。お地蔵さんの供養を勢徳寺、大橋透関師にお願いした。お地蔵さんは、高さ約40センチ、正確な作者や年代などは不明である。地元の郷土史家（伊古部地区の彦坂延一氏）や考古学の研究者（元時習館高校教諭鈴木源一郎氏）等の鑑定によると、その形状（光背や顔の形）から約250年前のものではないかとされる。顔の部分が欠けており、表情もよく分からないが、

地蔵さんであることは確かなようである。

この付近は近村（伊古部、野依等）の入会地であったための、村の境界争いなどでの事故者か、何かを供養したお地蔵さんのようだとも伝えられている。また、悩みを抱えた女性が地蔵を抱いて池へ身を投げ、干あがった池から取り出されたという伝えもある。

台に載せられた地蔵さんに生まれ変わり、名前も「しあわせ地蔵」とつけられた。春と秋には住職を呼んで、お経をあげてもらい、お地蔵さんを囲む祭りが開かれるようになった。

また、その後「大清水ふるさとづくり推進委員会」（昭和61年「家庭教育推進事業委員会」から改組）の名で、７本の「しあわせ地蔵」の赤い旗が立てられた。他にも、石造りの「しあわせ地蔵」の表札が建てられ、賽銭箱が置かれた。

地元の人々からも大切にされ、地蔵さんも安らぐ場所でしあわせであろう。

お地蔵さんを敬愛し、大切に思う心は、大清水という地域への愛と、そこに暮らす者同士の思いやりにつながるのではないだろうか。

（3）婦人会の活動

校区独立前後の校区の活動は、記録もなくあまり定かでない。一部の有志と婦人会によって支えられていたことが、今に残る婦人会の活動記録からうかがうことができる。

大清水の地域活動は戦後に始まった。

南では、昭和24年に大清水開拓農協が設立され、婦人部が発足した（会長：高林みや子）。後に豊橋開拓、豊橋農協の婦人部に引き継がれる。また、一時期の52年度まで、南大清水町婦人会が併設された時期もあった。

一方、北では、昭和25年に大清水町婦人会（初代会長：奥田節子）が発足した。これら二つの組織は、互いに連携を密に取りながら活動してきた。

婦人会（会長：穂浪あさの）は、校区誕生の昭和33年に、市の地域婦人会に加入し、市、県段階の活動に積極的に参加した。なお、校区婦人会会則は昭和49年９月１日に施行され、会長に星五子氏が就任した。

婦人会（部）は、大清水が校区となる以前には、唯一の社会活動実践組織であった。

そして校区となってからも、婦人会解散の52年までは、校区にとって最も有力な戦力であったことは、特筆されるべきことである。

次第に婦人会を取り巻く環境も変化し、それまでのような形で存続することが厳しくなって、52年度をもって解散した。改めて大清水町婦人部として活動してきたが、環境が一段と厳しくなり、会員の意向を踏まえて平成16年度をもって解散した。なお、南大清水町も52年度をもって看板を降ろした。

したがって、現在は、豊橋農協大清水婦人部のみが現存し、活動している。

なお、大清水町婦人会の歴代役員の努力によって、毎年度、毎日の活動日記が残されている。その記録によると、大清水町婦人会の会員数は、昭和50年度が最高で462名であり、会費制（月20円）であった。

その活動記録から、当時の様子がうかがえる。貴重な日記をもとに活動の一端を紹介したい。

地域婦人会への加入と活動への参加　昭和33年６月に地域婦人会に加入した。

当時は、地域婦人活動が盛んであり、大清水からもいろいろな活動に役員を派遣した。

例えば、県婦人結成大会（名古屋）、県婦人研修大会（名古屋）、婦人週間大会（豊橋）、原水爆反対街頭カンパ（豊橋駅前）、原水爆反対世界大会（東京）等。

講習、研修の開催と参加　婦人会は、生活改善や健康増進、子育て、青少年問題等をテーマに講習会等を企画開催した。例えば、

・37年度　大清水校区婦人講座
「青少年の不良防止」「保護司の活動」「ソ連の農業を見て」
・40年度　交通道徳講習会
・50年度　大清水地区婦人学級（10回）
「賢い婦人になるために」
・52年度　きもの着付け教室（10回）
・59～平成３年度　料理講習会等

また、昭和44年度にオープンした市生活家庭館において開催された各種の講習会や教室に積極的に参加した。

例えば、料理講習会、豊橋婦人の集い、消費生活講座、教養講座、趣味教室等

子どもの日、母の日の催し　昭和26年度と27年度には、子どもの日に豊紡のグランドで小運動会を開催した。幼児や小学生はパン食い競争を、中学生はソフトボールを楽しんでもらった。

昭和29年度には、子どもの日と母の日を兼ねて、バスを使って渥美半島めぐりをやり、母と子のコミュニケーションを図るとともに、会員相互の親睦を深め合った。

昭和28、34、36年度には、大清水分校（小学校）において、紙芝居や子どもの有志による踊りをして楽しんでもらった。参加賞は、全員に紅白まんじゅうを配った。

敬老会の準備、接待　昭和26年度から毎年度、敬老会を大清水分校、同小学校等で開催してきた。はじめのころは、数十人のようであったが、次第に増え、43年度には、100名を超える盛況となった。アトラクションは、素人芝居、子どもの手踊り、民謡クラブの発表、手品、落語、浪曲、漫才、マジック等、毎年度、役員が頭を痛めたようだ。記念品も、お盆、さらし、ネル、菓子器、茶碗、湯飲み、草履、座布団等毎年工夫して変化をつけるのに苦労したようだ。記念品は、常に紅白まんじゅうが添えられた。

養護施設への慰問　昭和33年度以降、52年度まで毎年度、岩崎学園や老人ホーム等を慰問し、お菓子を贈ったり、踊りを観てもらったりして、施設の皆さんに大変喜んでもらった。

社会見学会　婦人会は、会員の教養を高めるとともに会員相互の親睦を図るために、昭和52年度までの毎年度、社会見学を企画開催した。

見学先の例としては、武蔵産業、中央製乳、山口毛織、豊川自衛隊、浜松航空隊、小原和紙、オリエンタルカレー工場、サントリービール工場、トヨタ工場等であった。

秋の行楽一日バス旅行　昭和40年ころから、婦人会は、会員相互の親睦と情報の交換、日ごろの骨休めを目的に、秋の一日バス旅行を企画し実施してきた。

旅行先の例としては、瀬戸みかん狩り、舘山寺、三方五湖、恵那峡、甲府ぶどう狩り、飯田りんご狩り、日本平、奈良公園、伊勢神宮等であった。

貸出文庫、移動図書の世話　昭和35年12月から44年４月までは貸出文庫、昭和47から49年度までは移動図書が小学校の校庭で開設された。毎年度10回程度開設され、その世話を婦人会が行った。

ママさんバレーの活躍と世話　豊橋市が昭和45年５月に婦人バレー普及指導会を開催した。会のねらいは、スポーツを通じて明るい家庭を作るとともに、婦人の体力を増進しようとするものであった。

ママさんバレーの活躍（昭和59年）

これが契機となって、大清水ではママさんバレーがますます盛んになった。熱心に練習

が重ねられ、10月の体育の日には、市の家庭バレーボール大会において優秀な成績をあげた。その後も、47、48、49年度と続いて出場した。努力の甲斐あって、49年度の大会では、とうとう優勝することができた。このように、大清水校区では、婦人会が常に心強いサポーターを務めた。

(4) 青年会の活動

青年会の活動は、戦後早い時期から始まった。当時の記録がないため、正確にはわからないが、人々の記憶の中には残されている。北大清水の青年は4～5人程で、人数も少なく集まりもなかったようだ。南大清水地域は活発に活動し、豊橋市青年連絡協議会に参加し、機関紙に投稿していた。

昭和33年大清水開拓農協に青年部が設けられた。その年の祭礼に、農協青年部の呼びかけで、初めて校区の青年達が一体になって参加した。御輿(みこし)をかつぎ、映画会を開催した。以後、青年部の組織や活動は、曲折があり断続的であったようだ。時期はわからないが、校区に青年会が設けられた。青年会は、長い間地域の人々に親しまれてきた。「大清水青年友の会」は、平成11年度（12年3月）をもって解散した。

青年同士の交際の中で、教養を高め、親睦を深め、地域に奉仕するのが青年会の姿であると、人々に受取られていたようだ。

(5) 家庭教育推進事業への取り組み

大清水校区は、昭和59年度に市から家庭教育推進地区の指定を受けた。早速、家庭教育推進委員会を立ち上げた。まず最初に、校区の家庭教育に係わる実態調査を実施し、それを踏まえて話し合いがもたれた。その結果、

・家庭教育十訓の制定、全戸配布
・街を楽しくクリニックスの看板たて
・あいさつ道路を各地区に設置
・花しょうぶ花壇作り
・ふるさと音頭の歌詞募集
・ふるさとの塔の建立

等が計画され、2年間で一つひとつ実施された。

そして、2年間の事業が終わって、大林委員長は、校区民に次のように呼びかけている。

「その歩みは、ヨチヨチ歩きですが、街をよくしようと目標をもって一歩一歩とその足跡が残り前進しているのです。『家庭の和と校区の和で心豊かな大清水っ子を育てよう』そして、『心のふるさとに』その道は遠くても、みんなで手を取りあって、明るい大きなロマンを求めて歩こうではありませんか。」

大清水校区家庭教育十訓　昭和59年、校区、各種団体等の代表者を中心に「校区家庭教育推進委員会」を設けた。その委員会のもとで、現代っ子の欠けている面や、望ましい姿を話し合い、それをもとに校区の全家庭にアンケート調査をした。その回答の結果は、回答率74パーセントに及び、各家庭の関心の高さがうかがわれた。その結果を踏まえ、大清水の家庭教育のあるべき望ましい姿を、**「10の教え・導いてゆくことば」**で示した。

これは、校区内の父母、教師、校区民の考えを集約した**「大清水の望ましい人間像」**である。

[大清水校区家庭教育十訓]

1、善悪のけじめをつけ、いけないことや迷惑をかける行いは絶対にしない人になろう。
1、あいさつ、えしゃく、へんじのしっかりできる人になろう。
1、せいとん、片付け、手伝いが、自分から進んでできる人になろう。
1、ことばづかいに気をつけ、わがままを言わない人になろう。
1、物やお金を大切に使う人になろう。
1、食べ物に好き嫌いのない健康な人になろう。

1、他人の痛みのわかる思いやりのある人になろう。
1、心から「ありがとう」と言える、感謝の気持ちを持つ人になろう。
1、責任を他におしつけず、親や目上の人の言うことをすなおに聞ける人になろう。
1、子が見習う親に、親のよい点を見習う子になろう。

（大清水校区家庭教育推進委員会）

ふるさとの花　花しょうぶ　昭和20年まで、大清水の台地は陸軍用地だった。12年に渥美線近くの一帯を飛行場にするまでは、陸軍の演習場として使われていたので、起伏の多いこの地には、さまざまな自然が多く残っていた。

11年、県が愛知の自然を調査した。その委員会が、低い台地の藤ケ谷の湿地に紫を敷きつめたようなノハナショウブの見事さに感嘆した。そして、これを県の天然記念物として指定しようとはたらく。しかし、軍隊優先の時代、この努力は実現しなかった。

この話は、住民に夢と希望を与えた。

戦後移り住んできた人たちにも、この話は伝わり、地域を代表する花と信じられてきた。

例えば、昭和29年創建の**大清水神社の紋章**にも、33年創立の**大清水小学校の校章**にも、47年に開校した**県立豊橋南高校の校章**にも、校区30周年（62年）を記念して公募によって制定された**校区章**にも、この花しょうぶがデザインされている。

校区章

神社紋章

小学校校章

南高校校章

校区のマーク４種

この花を実際に地域で育てようという作業も、かなり以前から行われていた。かつて、藤ケ谷に開拓記念公園があった。ここは、豊橋開拓農協の所有地で、谷あいの湿地である。一面紫の美しさを誇っていたノハナショウブ群生の一部だった。

心ある人たちが花しょうぶを育てていた。ところが農協の大合併で、開拓農協がなくなることになった。公園は市に移管されることになり、花しょうぶは移転しなければならない。市は地域の人たちのしょうぶに対する愛着を理解し、南稜地区市民館の隣地を移転先として提供してくれた。

これが家庭教育推進事業の時期と重なり、事業計画の一環として、しょうぶ園作りが昭和59年度から始まった。

ふるさとづくり推進委員会が広報誌として発行していた「大清水ふるさとだより」（平成５年８月号）に当時の社教委員がしょうぶ園づくりの苦労について次の記事を投稿している。

「…社教委員の役割での充実感はやはりしょうぶの管理に尽きます。しょうぶを株分けしたこと。石ころばかりの所を耕したこと。こんな所で育つかと思いましたが、夜の鉢植え作業を懐かしく思い出します。」と。

家庭教育推進事業が終わった後も、しょうぶ園の管理は続けられた。平成５年には、推進事業当時の社教委員が中心になって「しょうぶの会」が結成された。

造園を始めてから20年、しょうぶ園は、小規模ながらかつての荒地に近いほ場から整った園に変った。これは「しょうぶの会」のメンバーの熱い思いが込められている。

しょうぶの管理作業は、年間を通して多岐にわたっている。とくに、植替え、除草、わらしき等の時には多くの手間がかかる。そこで、各種団体の役員が当番を決めて出役し、

作業に精を出している。おかげで年々素晴らしい花を咲かせることができている。

ふるさとの塔の建立　「家庭教育十訓」の実践と定着をめざして２年目の昭和60年４月に、その年度の活動方針が話し合われた。子どもや孫たちが、おふくろの香りを心から求めて帰ってこられるような「あたたかいふるさとづくり」をしようということになった。

そのシンボル塔として「大清水を心のふるさとに」と大書した大きな塔を建てようと決まる。早速、校区民に対して、善意の「ふるさと募金」への協力がお願いされた。塔を建てる敷地は、駅構内の富士見街道沿いの、踏切りに隣接した所である。この場所は豊橋鉄道の好意で、無料で貸してもらえることになった。

昭和60年11月29日、「ふるさとの塔」の完成式が行われた。その日の朝、子どものパレードを先頭に、幼稚園児をはじめ多くの校区民が参加して、小学校から「ふるさとの塔」まで行進した。式場には、太い青竹につるされた紅白のくす玉が用意され、６年生の代表によって割られた。みんなの持つ色とりどりの風船が青空に向かって一斉に放たれ、塔の建立を祝った。

その「ふるさとの塔」は、校区民がいつまでも健やかに暮らしていけるよう見守っている。

30周年記念パレード（昭和62年10月）

（6）校区に貢献する人々

親交会　大清水は歴史も浅く、住民は各地から集まってきた人たちで新しい町を作っている。町づくりに欠かせない人心の交流が心配されていた。将来のため、明るいまちづくりのためにという志を持った15人の人たちが集まり相談をする。昭和39（1964）年３月、26人の仲間で「大清水親交会」を発足させた。

会員同士の親睦をはじめとして、住民への奉仕と校区発展のための活動が広がっていった。主な善意の事業や活動は次のとおりである。

41年、小学校新入学児童へ安全帽子を寄贈（以後毎年実施）。北・南大清水町の集会所へ黒板の寄贈。48年、校区の電話帳作成、各戸へ配布（現在まで三回更新し配布）。49年、小学校体育館竣工時に、緞帳（どんちょう）を寄贈。51年、「大清水校区地図」を発行、各戸へ配布。57年、大清水神社の祭礼に参加。カラオケ大会を始める（平成15年まで）。58年、530運動に参加（平成14年まで）。校区へ雨傘200本を寄贈。63年、校区交通安全０の日、立ち番に参加（平成16年まで）。

平成６年に「親交会創立30周年記念事業」を実施（記念式典、感謝状贈呈、記念誌発行、チャリティーバザー、カラオケ大会、もち投げ等）

大清水親交会は「親睦と奉仕」を柱に、校区の皆さんとともに、「心のかよいあう、明るいまち」を目指して、42年の歴史の上に、更に発展を遂げようとしている。

しょうぶ太鼓　平成４年10月に太鼓の好きな人々が集まって「大清水太鼓」を結成し、太鼓の練習が始まった。初歩からの太鼓の演奏は大人には容易でない。練習時間を作るのも大変だったが、演奏するというレベルまで根気よく努力された。

平成８年になって「大清水太鼓」は、「しょうぶ太鼓」と改名し、会員の親睦と太鼓を通じて青少年を育成しようという目的を掲げ、会が発足された。現在の会員は、大人４人、

小学生40人である。

校区の各種行事で「しょうぶ太鼓」が演奏される。しょうぶ園祭り、三世代レクスポ大会、敬老会、盆踊り、お祭り、成人式と校区の主要な行事を盛り上げてくれる。今では、校区にとって、なくてはならない存在である。

しょうぶ太鼓としょうぶ園の世話（平成17年）

大清水校区は、平成19年度には、校区50周年を迎える。それにむけて、大清水オリジナル曲を作ろうと、プロに作曲を依頼し、できあがったその曲で、現在演奏指導を受けて特訓中である。発表が楽しみである。

「しょうぶ太鼓の会」は、平成13年２月10日、豊橋市教育委員会と豊橋市民生委員児童委員協会長の連盟で表彰された。

『青少年の健全育成活動を積極的に推進し、社会のために奉仕している　そのあたたかい情熱と実践は他の模範である。』として。

(7) 市民館活動

南稜地区市民館　地区市民館は、昭和49年より市内に順次開館された。その目的は「地域住民がいつでも気軽に集い、話し合うことにより連帯感、共同性を培うとともに生活文化の向上、教養を高める」を目標に設置された。

南稜地区市民館は昭和50年に開館し、市内で３番目という長い経歴をもっている。それだけに、積み重ねた業績は多い。「市民館だより」という広報は、各市民館も発行しているだろうが、「市民館だより南稜」は、17年11月号で354号を出している。大変な情報発信で、これが地域住民の「学び続ける意欲」を刺激し続けているようである。

平成17年３月現在で、37の自主サークルがある。サークルの参加者は、大清水、植田、野依、大崎、富士見台の５校区が主であるが、講座の参加者は市内全地域にわたっている。活動を通して、仲間づくりをし、交流を深めつつ力をあわせて、よい地域づくりのために大きな働きをしている。

学習に集う人たち　地区市民館の講座には多くの興味深い企画がある。講座には定員があり、希望しても参加できないこともある。その一つに、大清水の人たちが最も親しんでいる「高齢者セミナー」という企画がある。高齢化時代への対応で大勢の参加ができるよう配慮されている。

17年度の内容は、法話、落語、童謡、ナツメロを歌う、寝たきり防止、社会見学、体操など広い範囲にわたり、とくに高齢者の関心の高い内容が計画されている。

この高齢者セミナーへの参加希望者は６月現在で約150人、そのうち大清水の参加者は50人と意欲的である。この学ぶ意欲をもち続ける人々の積極的な姿勢は、地域にとっても心強い限りである。

自主サークル活動で20～40人と参加者の多いのは、体操のリフレッシュ、いきいき、シニアの３部門と歌のカラオケ、演歌、歌謡、大清水演歌の４部門で、健康づくりや趣味を楽しみ、豊かな生涯学習がされているようだ。

当館を利用し、自主サークル活動の成果を発表する**「市民館祭り」**が毎年、11月第１週の土・日の２日間開催される。自ら学ぼうとするグループは積極的、意欲的である。作品展は２日間、芸能大会は日曜日の１日である。作品展では１年間の努力や工夫の集大成

を出品。17年度は12部門、180点の作品を全館に展示した。また、芸能大会は11部門、68ステージと多種多様の芸能が発表された。2日間の入場者は700人余に及ぶ盛大さで、地域文化の交流や発展向上に貢献している。

17年度より図書利用の方法がかわった。市内4市民館のみの試行で、中央図書館とオンライン化され、中央図書館の本の返却や貸出し（予約）ができるようになった。便利になり利用者や貸出し冊数が倍以上になったとのことである。当館の現在の蔵書冊数は約5,000冊である。

また、市は「とよはし情報ネット」を当館にも設置し、情報提供に努めている。さらに当館は「南稜地区市民館ホームページ」を開設し、地域文化の発展向上に貢献している。

大清水校区市民館　校区市民館は昭和54年から毎年10館ずつ建設され、大清水校区市民館は昭和58年3月に開館した。市は、核家族化が進み、人々の結びつきが希薄になったことを踏まえ、集会やコミニティー活動をする施設として小学校区ごとに校区市民館を建設した。

それは、住民にとって最も身近な施設で、大人から子どもまでコミュニティー形成のための有力な場である。

住民は様々な活動や学習をして生活を豊かにしている。子ども達も集会室や図書室で、友達との交流を楽しんでいる。

当校区市民館では、社交ダンス、生け花、手芸、ご詠歌、大正琴、自彊術（じきょうじゅつ）など15の自主グループが活動している。最も長いのは、詩吟の会で以下三味線、民謡、体操と続く。これらのグループは月平均4回の活動をしている。この活動のみでも月に60回の利用があり、人々が集まって趣味を楽しみ、交流を深め合っている。

これらが大人の自主グループなのに、子どもとともに活動しているものに、しょうぶ太鼓、空手、かきかたの三つがある。世話をする人は、その技能ができるようにするとともに躾も行い大変な活動である。しょうぶ太鼓は小学生時代だけである。多くの人々に感動を与える演奏を完成させるには、時間が少ないので、お世話をする方は苦労が多いようである。その練習の成果を校区の各種行事で演奏し、活動に花を添えている。

また、低学年の子どもが、お母さんと一緒に本を借りていく微笑ましい姿を時々みかける。

このような活動が、地域の宝物として、この校区市民館で育てられている。

大清水児童クラブも置かれている。校区市民館は市社会教育課の委託を受けて2人の主事と地区役員が中心になり運営されているが、この校区市民館に市児童福祉課委託の「児童クラブ」が置かれている。これは、保護者が働いていて昼間家庭にいない小学校低学年児童（1～3年生）を対象に世話をしている。授業終了後に校区市民館で適切な指導や保護（生活の場を与える）を行い、児童の健全な育成をはかっている。

下校後の児童クラブ（平成17年12月）

大清水の児童クラブは、平成6年4月に設立された。児童クラブの定員は35名（現在38名）で、指導職員2名と補助員6名が交替で午後6時まで世話をし、活動している。

子どもたちは、館内では学習や紙工作、トランプ、カルタなどで遊び、運動場ではサッカー、ソフトボールなどをして遊んでいる。

指導員は、楽しく遊べる場つくりや後片付け、あいさつなどの躾の一部分が身につくよう心がけ世話をしている。この児童クラブは働く保護者にとっても安心の場になっている。

大清水校区市民館は親しみやすく、集会や会合が楽しくできる、コミュニティー形成の中心の場であり、人々が和み会うコミュニケーションの場である。

そうした校区の活動を支えるために、金・土・日曜日には、校区役員会や各種団体の会合がもたれ、校区行事の企画運営等が話しあわれている。これからも地域を結ぶ情報発信の基地としてはたらいてほしい。

(8) 心がかよいあう　すみよい町　大清水

昭和33年、大清水校区は誕生した。だが、それ以前は、校区としての活動はなくても、少しずつ変っていた。特に、昭和20年８月15日の終戦とともに大きく変化してきた。終戦以前に移住してきた人々や、戦後開拓団として移住してきた人々が中心になり、歩んできたことがうかがえる。

平成19年には、大清水校区50周年を迎えるまだ若々しい町といえる。校区総代会、各種諸団体等を中心にした校区民は、「すみよいまち大清水」をめざして生活してきた。

その活動例として、「ふるさとの心」を美しく育てていこうと、ふるさとの塔周りに花壇をつくり、その世話をしている。今日まで季節ごとの花が植え替えられ、そこを通る人々にうるおいを与えている。その花壇の手入れは、一部の有志の好意によって今日まで20年の間続けられている。素晴らしいボランテア活動である。いつまでも続けられることを願う。

また、大清水駅に降り立ち、駅舎に目をやると「おつかれさま　お帰りなさい」と大書した看板がある。自分の家に帰ったという安心感を与えてくれる、心温かくなるものがある。

さらに大清水小学校の児童も「公園を美しく」「ゴミを捨てないように」と公園内や施設等に手書きの看板をかけて人々に呼びかけたり、ゴミ拾いをしたりしている。地域愛と地域への関心が育てられている。

よい家庭づくり、人づくりは、地域の人々のふるさとを愛する心が基になる。大清水には、印象に残る山や川はない。だが、心のよりどころにとなるような思い出や、心豊かな土地柄を思い浮かべるようなシンボル「ふるさとの塔」「花壇」「看板」「しょうぶ園」等がある。校区の人々の善意や愛情を表わすものは、次代の人々の心に響き、胸に秘められて、よい地域社会をつくりだす礎（いしずえ）となっていくであろう。

昭和62年の校区30周年記念誌「開けいく大清水」の中で、大林実行委員長は、校区民に次のように呼びかけている。

「大清水小学校及び校区創立以来、皆さんの並々ならぬご苦労と、その度に寄せられた心温まる善意により、私たちの町、大清水も豊橋南部の中心として成長発展し、30周年を迎え、記念事業、記念誌の発刊のできることは喜ばしいことと思います。

『私のふるさとは大清水です』と胸を張って言える豊かな明るいロマンのある町を創造し、チャレンジしましょう。」と。

私たちの校区は、平成19年に50周年を迎える。それを機会に、私たちはこの校区民への呼びかけをしっかりとかみしめ、現状を踏まえつつ大清水校区の将来進むべき道をよくよく思考したいものである。

「コミュニティー」とは、新しいものを創造していく社会のあり方をイメージするものだといわれる。よりよい生活の場を作りあげ、私たちの地域社会「心がかよいあう　すみよい町大清水」を実現していきたいものである。

3　子どもが見る大清水

ウォークラリー

1年　　おおば　ゆうだい

ぼくはことしはじめてウォークラリーにさんかしました。おおしみずじんじゃからスタートしました。と中のチェックポイントでゲームをしました。ひいたスーパーボールのいろでてんすうがきまります。ぼくは5てんでした。

ふくにくっつく草をともだちとなげあってあそんだり、木を見ながらあるきました。しあわせじぞうのよこのすずをならして、おまいりしました。たのしい日になりました。

しょうぶえんまつり

1年　さかもと　あゆみ

しょうぶえんまつりでは、きれいなしょうぶのお花のえをかいたり、おどりをおどったりしました。たくさんの人が、しょうぶのお花を見にきていました。きいろやむらさきや白のしょうぶがいっぱいさいていました。

しょうぶは6月のはじめごろだけ、いっぱいさきます。しょうぶえんまつりは、とてもたのしくて、すてきなしょうぶのお花がいっぱいさいていて、大すきなおまつりです。

530うんどう

1年　やました　ゆうな

わたしは、もとまちの530うんどうにさんかしました。とてもあつい日でした。みんなでかれはをひろいました。すごくあせがでました。

あとでおかしとジュースをもらいました。ジュースをいえのれいぞうこでひやしてのみました。あせをいっぱいかいたから、とてもおいしかったです。ごみをひろったところを見たらきれいになっていてきもちよかったです。

「またやろうね」とおかあさんにいいました。

楽しかったレクスポ

2年　かじはら　りか

わたしは、レクスポにともだちと行きました。ダーツやわなげなどをやってたのしかったです。ボーリングみたいなあそびをしました。4人ぐらいのグループでやって楽しかったです。さい後のへんでしょうひんをもらい、ちょ金ばこが当たりました。すごく楽しかったです。

2年　かじわら　りか

がんたんマラソン1いをめざす

2年　きのした　ゆうき

ぼくは、のより小2年のいとうもりくんといっしょに走りました。きょ年とおなじです。

さいしょは、とても元気よく走りました。と中でおされて足がいたくなったけど、がんばりました。ゴールしたときは、すごくつかれていました。でも、なんだかいい気分でした。ほいく園のころは、いちばんさい後だったけど、ちょっとずつはやくなっています。らい年は1いめざして走ります。

1年に1どのしょうぶまつり

2年　かぢば　ひなの

わたしは、しょうぶまつりに行ってしょうぶの花の絵をかきました。

はじめに下がきをしました。花をよく見ていっしょうけんめいかきました。すごくむずかしかったです。

つぎに、絵のぐで、色ぬりをしました。下がきと同じように、花をよく見て、ここはむらさきと、心の中で思いながら色ぬりをしました。そうしたらうまくかけました。

ドキドキワクワク大命中

3年　伊藤　万実

（だいじょうぶかな、でもがんばるぞ！）レクスポのある朝、ドキドキとワクワクが半分ずつの気持ちで地区体育館にむかいました。

レクスポ大会では、ふき矢、ボーリング、わ投げなどでいろいろなきょうぎがあります。その中で一番うまくいったのはダーツです。チームのみんなが高いとく点を出していたので、（わたしもぜったいあてるぞ）と思い、集中して投げました。けっかは見事真ん中に命中です。みんなよろこんでくれました。

わたしたちのチームは、ゆう勝できなかったけど、チームみんなできょう力できたし、いっしょによろこびあえたので、よかったなと思いました。レクスポにでて、楽しい一日でした。

ひなん所体験から学んだこと

3年　清水　涼輔

10月に、体育館でひなん所体験学習をしました。そのとき、水がないことがいちばん不便でした。ぼくの生活にこんなに「水」が使われていたなんて知りませんでした。

家に帰って、非常持ち出し道具や、もしもの時の集合場所を家族で話し合いました。その夜、3人で歩いて消火器の位置を調べました。毎日気づかなかった場所にいっぱいありました。

中消防署や豊橋警察署や市役所に見学にいった時に、たくさんの人たちがぼくたちのことを考えてくれていることがわかってうれしかったです。ここで一句「大事だよ　水も電気も　せつやくを！」

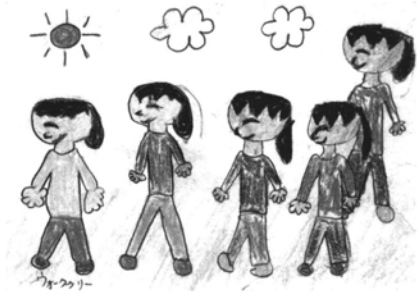
ウォークラリー

3年　倉橋　奈那

11月の秋晴れの日、わたしは、ウォークラリーに行きました。幸野ちゃん、楓ちゃん、咲希ちゃんと幸野ちゃんのおかあさんもいっしょに歩きました。

わたしのおかあさんは、こども会の役員なので、ジャンケンゲームの相手をしていました。私はお母さんとじゃんけんをして、3回しょうぶで、一回勝ちました。スーパーボールとりやぼうジュースとりにもちょうせんして、みんな一こずつとれました。

どんどん歩いていくと、やっとしあわせじぞうにつきました。ゲームをしながら歩いてとてもつかれました。しあわせじぞうにおまいりして、ほっとしました。



3年　倉橋　奈那

みんなでがんばった総合（公園ポスター作り）

4年　高橋　見明

わたしたちは、総合学習で、校区のゴミ調べと530活動をやりました。530のポスターと看板を作りました。

どういう言葉や文字にすると、みんなが見てくれるかなとアイディアを出し合い、きれいにし上げました。看板は上藤ガ谷公園に、ポスターはひばり遊園や三角公園にはりました。

公園は、きっとゴミが減ってきれいになると信じています。今までは、学校にもゴミが落ちていたが、校内にポスターをはったり、お昼の放送で全校に呼びかけたら、ゴミがへりました。

これから、大清水校区のゴミがへり、きれいになるとうれしいです。

大羽さんに教えていただいた大清水の歴史

4年　岩瀬　瑞生

私たちは、総合学習の時間にゲストティー

チャーの大羽さんから、大清水の歴史などについて教えていただきました。

町の名前の由来や、町のシンボルの花しょうぶの事や、戦争中のくらしの様子などの話を聞くことができました。

今の私達の生活から想ぞうがつかないお話がたくさんありました。私は、おじいちゃんやおばあちゃんといっしょにくらしていないので、めったに聞けないお話もありました。

お話を聞いて思ったことは、いろんな人が努力や苦労をして作りあげた町なので、便利な都会になりすぎるよりも、今みたいにたくさんの人が支えてくれる町を大切にしたいです。

クリーン作戦をやって考えたこと

４年　近藤　初美

上藤ガ谷公園、小さいころ遊んだ所ですが、最近は行ったことがありません。公園には、タバコ、缶、びん、コンビニ弁当の残り…。ごみが思ったよりたくさん落ちていました。ゴミ拾いをしてみるとけっこう捨ててあります。どうしてゴミ箱じゃない所に捨てるのかな？捨てる人の心が悪いから？自然に土にかえると思っているから？私は、今もポイ捨てしませんし、大人になってもしないつもりです。

学校でゴミ処理のことを学習しました。ゴミは自然にはなくなりません。だれかがどこかで資源にもどす努力をしています。私も、家ではごみをたくさん出しています。今は、よく考えて必要のない物を買わないようにしています。

４年　近藤　初美

ふれあい教室

５年　大場　理央

大清水小学校では、校区の人たちとふれあう「ふれあい教室」という行事があります。「和太鼓」や「空手」「染めもの」など、たくさんの教室があり、その中からやりたいものを選ぶことができます。

私は「焼き杉」を体験しました。焼き杉は、木のまわりをやすりでけずり、ガスバーナーで真っ黒になるまで焼きます。そして、ブラシで色が見えてくるまでこすり、ニスをぬって完成です。大変な作業ですが、講師の人が一人ひとりていねいに教えてくれます。

昨年の焼き杉では、万博で人気になった、モリゾーとキッコロの型でした。私達が喜んで取り組めるように、一生懸命考えてくれたんだなあと、ちょっとうれしくなりました。

私は、年に一度しかないふれあい教室をいつも楽しみにしています。今度は、どの教室を体験しようかなあと、今から、迷っています。

なかよし集会

５年　西村　優汰

なかよし集会は、１年生から６年生までが楽しく遊び、みんながなかよくなれるようにします。みんなが仲良くなる、いろんな遊びを考えてくれて、みんなをまとめてくれる人が必要です。それを６年生がやってくれます。

例えば「ドッジボール」や「おにごっこ」をやる時には、５年生や６年生は、「ボールは左手で投げよう」とか、なるだけ低学年にボールをわたすなど、自分ばかりボールを投げずに中学年や低学年の子が、つまらなくなってしまわないように、ハンディーをあげるようにするなど、６年生が工夫して計画しています。

そんな６年生をぼくはすごいなと思います。今まで、６年生が考えた遊びはおもしろいなと思って遊んでいましたが、来年度は、僕達

が楽しくて面白い遊びを考えなくてはなりません。ぼくは、とてもやる気になっています。みんなのためにがんばりたいと思います。

大清水しょうぶ太鼓

5年　青柳　ののか

私は、2年生の時から、毎週水曜日に、大清水校区市民館で大清水しょうぶ太鼓を習っています。最初にしょうぶ太鼓を見たのは、校区の秋のお祭りです。太鼓の演奏は、心にひびく勇そうな音でした。ハッピ姿で太鼓をたたく人も、とてもかっこよく見えました。友達がやっていたのもあって、私も太鼓を習うことにしました。毎年、しょうぶ園祭り、秋祭り、成人式、レクスポ大会などで演奏しました。

大清水は、昔、湿地帯で、多くの野花しょうぶが自生していたそうです。大清水しょうぶ太鼓はそこから名前がついたそうです。

太鼓の練習は、新しいリズムを覚えるのが大変です。でも覚えて演奏した時に、見ていてくれた人が拍手してくれると、とてもうれしいです。大清水しょうぶ太鼓をもっとたくさんの人に聞いてもらえるように、これからも、太鼓をがんばりたいです。

大清水クリーン作戦

6年　清水　友一郎

「藤ガ谷公園クリーン作戦」── 緑守り隊 ──。これは僕が生まれ育った大清水を意識する第一歩です。

僕の4年生の時です。3月の初め、強風が吹く冷たい日でした。休日にもかかわらず、20人もの仲間がクリーン作戦に集まってくれました。みんなの気持ちに僕は胸が熱くなりました。なにより一緒になって活動できたことがうれしかったです。たぶん僕が初めて責任を持たされ、やり遂げることができた忘れられない出来事です。

もちろん今でも1年に2回ほどみんなが集まり、クリーン作戦を続けています。続けることが一番大切なことであり、それが大清水から日本へ、そして日本から世界へと広がり、僕達の住んでいる地球をきれいにするきっかけになると思います。だから僕はこれからもクリーン作戦を続けていこうと思います。

いつまでも明るい大清水

6年　菊地　絢子

私は、大清水校区が将来、今よりももっと明るくきれいなすみやすい町になっていてほしいと思っています。

そう思う理由は二つあります。4年生の時、大清水校区や地球環境を守るために、ポスターを作ってポイ捨てをやめさせようとしたり、リサイクルしてごみをへらそうという活動をしました。これからもそういう活動を続けていってほしいという願いが一つ目の理由です。

二つ目は、5年生の時、お年寄りの方々と交流し、リコーダーの演奏を聞かせてあげたり、遊んだりしました。またお年寄りの方に昔の遊びを教えてもらったりしました。

二つの活動から、校区の方々に呼びかけたり、おじいさんおばあさん、両親、私達が世代をこえて交流することは大切だとわかりました。

学校で学んだことを生かし、私たちは、よりよい大清水校区を作っていきたいです。

5年　大場　理央、大野　誠登　合作

大清水校区年表

大清水地域のむかし

縄文時代前期［８千万年前］
・狩猟、採集生活
・弓矢、土器の使用始まる
・磨製石器
　※天伯原、高師原の洪積大地が生活の場、獲物をとるための少数の集団

・富士見　石鏃
・藤ヶ谷　石鏃、石刀、石鎗
・大清水
　茶畑、掻器、石刀、石鎗、土器

縄文時代後期［３千年前］
・海面が下がり平地広がる
・沖積平野が大方形成される

・沖積地は生活可能になる
・台地から清水わき出る

弥生時代［２千年前］
・稲作が広まり定住生活が中心となる

・豊川流域（瓜郷）とほぼ同時期、梅田川流域で水田耕作
・大清水（蛤刃石斧ー瓜郷後）

律令時代［西暦701年］
・大宝律令制定60の「国」に区分「郡」が置かれる

・三河国誕生
　［宝飯郡、八名郡、渥美郡］

平安時代［西暦794年］
［1000年頃］
・無釉の陶器が（現）野依町から（現）田原市渥美町までに盛んに焼かれる。渥美窯と総称される。「山茶碗」と呼ぶ

・豊橋南西部古窯址群
　［植田、大清水、大崎群　10支51基］

鎌倉時代［西暦1193年］
・源頼朝、征夷大将軍となる
・安達盛長、三河国初代守護になる［建久３（1193）］
・伊勢街道（舞阪～細谷～小松原～七根）

・豊橋南西部古窯址群（※行基）
　［野依、南大清水群　７支74基］

室町時代［西暦1338］
・足利尊氏、征夷大将軍になる
・戸田宗光、仁連木城を築く［明応２（1493）］
・牧野古白（宝飯郡の国人）今橋城を築く［永正２（1505）］
・牧野成三ら今橋城を占領吉田城と改名［大永２（1522）］
・吉田城主酒井忠次、関屋から下地へ架橋［元亀元（1570）］
安土桃山時代［西暦1574］
・池田輝政吉田城主［天正８（1590）］
江戸時代［西暦1603］
・徳川家康、征夷大将軍となる
・吉田大橋架け替え［慶長12（1612）］
・小笠原忠知吉田城主となる（大分より）［正保２（1645）］
　「小笠原４代52年間は幕藩体制の確立、町づくりが完成し、城下町吉田が、いちじるしく発展」
・東三河の大名は、吉田藩と田原藩
・松平信祝、吉田城主となる（茨城より）［正徳２（1712）］
・吉田藩は、明治維新までに９家22代であった

当時の村名
［東植田村、西植田村、大津村、杉山村、野依村、仏餉村、高足村など］
　※大清水は、植田・野依・大津・大崎の入会地

時代年号		西暦	世の中のできごと	豊橋と周辺のできごと	大清水校区のできごと
明治	元	1868	・五箇条の誓文	・吉田藩論、朝廷に帰順と決定	
	4	1871	・廃藩置県	・吉田藩の名称は、豊橋藩、豊橋県、額田県、愛知県と矢継ぎ早に変遷	
	6	1873	・地租改正条例公布		・入会地は、明治以後多くは国有地となった
	39	1906		・豊橋市制施行	
	41	1908		・第十五師団豊橋開庁（11月）	
	42	1909		・騎兵第四旅団、師団内に創設	・御料林の高師天伯原は演習場に、買い上げられた。
大正	7	1918	・米騒動		
	11	1922		・渥美電鉄（株）創立	
	12	1923	・関東大震災（９月）	・豊橋市、都市計画の適用を受ける	・御料林100町歩余政府より高師村へ払い下げ

時代年号		西暦	世の中のできごと	豊橋と周辺のできごと	大清水校区のできごと
大正	12	1923			※高師村の村域は広く、現在の植田、野依なども入っていた 高師村の統計（大正13年） ・戸数2,565戸　・農家 1,627軒 ・田 93,060ａ　・畑 98,840ａ ・米 13,249石　・麦 6,661石 ・繭 48,043貫　・桑畑59,400ａ
	13	1924		・渥美電鉄（株） 田原駅～高師駅間開通	・大清水駅開設
	14	1925	・第15師団廃止	・豊橋市内電車開通	・清水清次氏野依より移住 ・前田昌太郎氏も開墾に着手
	15	1926			
昭和	元	1926			
	2	1927			・耕地整理開始
	4	1929			・耕地整理組合設立着工
	5	1930	・経済恐慌深刻化		
	6	1931	・満州事変	・豊橋市公会堂竣工	
	7	1932		・豊橋市町村合併 ［牟呂・下地・二川・高師・多米］	・豊橋市大清水町となる （８月県告示第663号） 字名［大清水、彦坂、姫田］ ７～９年の間に７～８戸が移住 ・大清水結成同盟会立ち上げ
	8	1933			・大清水町規約を定める
	10	1935			・相模紡績工場誘致契約
	11	1936			・富士紡績が相模紡績買収 ［大清水工場操業開始］
	12	1937	・日中戦争		・野生花しょうぶ天然記念物報告書 ・山藤商店開店 ・他数軒が大清水に移住 ・飛行学校分校が大清水軍用地内設置
	15	1940		・名古屋鉄道（株） 渥美電鉄買収	・耕地整理完成
	16	1941	・太平洋戦争開戦 （12月８日）		
	18	1943		・大崎島に豊橋海軍航空隊が開隊 ・豊川、鳳来寺、三信、伊那の４鉄道が飯田線となる	・東洋通信機、富士紡績を買収操業
	19	1944		・歩兵18、118連隊がグアム、サイパンで玉砕 ・東南海地震発生 （12月７日）	・陸軍大清水飛行場拡張 ［市民・学徒動員］
	20	1945	・太平洋戦争終結 （８月15日） ・開拓増産隊組織就農対策本部設立農林省に開拓局設置 （10月１日） ・緊急開拓事業実施要項の閣議決定（11月） （開拓が国策実施）	・三河地震発生（１月） ・豊橋空襲（６月） ・県開拓増進本部発足 （10月１日）	・県市は、国の指導で開拓事業開始入植者142名［農地開発営団］ ・入植開始（大清水開墾助成地区）軍用地開拓始まる ・入植許可を受けた仮配分の農地の開墾開始
	21	1946	・農地改革（10月）	・豊橋文化協会設立 ・愛知大学開学	・植田国民学校大清水分教場開設 ・大清水郵便局開局 藤村元治氏　老津より移住 ・大清水開拓団組織

時代年号		西暦	世の中のできごと	豊橋と周辺のできごと	大清水校区のできごと
昭和	22	1947	・教育基本法公布（3月31日） ・日本国憲法施行（5月3日）		
	23	1948	・農業協同組合法公布（11月19日） ・新制高等学校発足（4月1日） ・農地開発営団解散		・大清水開拓農業協同組合設立 ・南大清水開拓農業協同組合設立 ・藤ヶ谷開拓農業協同組合設立
	24	1949	・農林省開拓事務所設置 ・土地改良法制定	・豊橋市校区社会教育委員会連絡協議会結成	・大清水開拓農業協同組合（南大清水農協と合併）※農協婦人部発足 ・豊橋市酪農農業協同組合設立 ・日吉紡績、東洋通信機豊橋工場を買収し操業 ・植田小学校大清水分校開設（1～3年生） ・電灯：（現）元町地区に開通
	25	1950	・朝鮮動乱（6月25日）	・大日本紡績、旧軍用地（開拓地：現曙町松並）に工場建設 ・豊橋民衆駅新築	・仮配分地売り渡し（昭24、25） ・更生保護婦人会発足 ・大清水町婦人会発足 ・豊川用水起工式（豊橋地区） ・近藤紡績、日吉紡を買収（豊橋紡績となり操業開始） ・電灯：（現）東大清水町と藤ヶ谷の一部開通 ・大清水開拓農協：藤ヶ谷、大清水合併
	26	1951	・サンフランシスコ平和条約、日米安全保障条約調印（9月8日）		・敬老会開催（婦人会が準備接待）
	27	1952	・同上条約発効（4月28日） ・農地法 ・農林漁業公庫法	・天竜・東三河地域が国土総合開発特定地域に指定される（12月） ・豊川用水土地改良区設立	・大清水神社造営決定
	28	1953			・台風13号に被害甚大 ・氏子総代会発足 ・大清水神社造営遷宮 ・電灯：富士見、藤ヶ谷全戸、東大清水に開通 ・大清水分校校舎建設決定 [開拓農協敷地を提供、農林省の補助金]
	29	1954	・自衛隊発足（6月9日）	・産業文化大博覧会開催（吉田場址内） ・豊橋動物園開園	・大清水神社完成 ・秋祭り開催 ・大清水分校校舎建設工事始まる ・開拓10周年記念誌刊行
	30	1955	・愛知用水公団発足（10月）	・町村合併 [二川、石巻、高豊、老津、前芝の1町4村]（人口20万都市）	・共同墓地市の認可 ○初代墓地委員長：千種清一 副委員長：木田久男 ・大清水町総代：清水清次（北） ・開拓農協組合長（南） ・大清水町内会規約施行
	31	1956			・大清水託児所開設
	32	1957			・保護司任命、少年補導委員兼務（初代：天野とし）
	33	1958			**・大清水校区ができる** [初代校区総代：後藤常夫] ※大清水町、南大清水町、豊紡町 ・豊橋市立大清水小学校開校

時代年号		西暦	世の中のできごと	豊橋と周辺のできごと	大清水校区のできごと
昭和	33	1958			・小学校ＰＴＡ発足 ・南稜中ＰＴＡ発足 ・校区社会教育委員会発足 ※豊橋市校区社会教育委員会連絡協議会加入 ・市南部消防団大清水分団発足 ・大清水町婦人会、地域婦人会加入 ・同婦人会、岩崎学園や老人ホーム慰問を始める ・遺族会発足、市遺族連合会加入
	34	1959	・メートル法実施（１月１日） ・皇太子（平成天皇）ご成婚（４月10日）		・伊勢湾台風、校区被害状況［全壊87戸、半壊28戸、大破16戸］（９月26日）
	35	1960	・所得倍増計画決定（11月27日） ・世界農林業センサス実施		・婦人会、貸出文庫の世話始める ・大清水開拓農協事務所等焼失 ・発展会結成
	36	1961	・農業基本法（６月12日）	・豊橋市体育館完成	
	37	1962			・排水路改修 ・道路簡易舗装開始 ・校区婦人講座開催（以後多彩な講座教室を実施）
	38	1963	・ケネディ大統領暗殺（11月22日） ・初ＴＶ宇宙中継（11月23日）	・豊橋市民愛市憲章を定める（４月１日） ・東三河工業整備特別地域に指定	［二代校区総代：河合敬一郎］ ・老人クラブ発足（昭51までに６単位）
	39	1964	・東海道新幹線開通（10月１日） ・東京オリンピック開催（10月10日）	・三河港重要港湾指定	・簡易水道工事開始 ・親交会結成
	40	1965			・校区内に電話開通 ・簡易水道完成（大清水町、南大清水町合同設置） ※大清水町組合長：大林本之助 南大清水町組合長：片山玉四
	41	1966		・市内の開拓農協が合併、豊橋開拓農業協同組合となる	・南大清水町、東大清水町誕生（県告示第16号） ・開拓地土地登記完了（昭38～41）字名：元町・富士見・藤ヶ谷・（東大清水町） ・市第六方面隊大清水分団発足 ・親交会、小学校新入児に安全帽子贈呈を始める ・豊橋開拓農協大清水支所設置 ・豊橋市南部農協登記、事業開始
	42	1967		・市民文化会館開館	
	43	1968		・豊川用水完成大清水支線通水	・大清水町公民館竣工 ・大清水幼稚園学校法人認可 ・大清水幼稚園母の会発足
	44	1969	・東名高速道路全線開通（５月26日） ・アポロ11号月面着陸（７月20日）	・生活家庭館開館	・豊橋開拓農協大清水支所新築 ・赤沢街道舗装 ・豊橋消防署大清水分遣所新設 ・豊橋市酪農農業協同組合大清水支所新築移転（植田町から元町へ） ・交通安全モデル地区指定 ・交通安全立ち番開始 ・南大清水町集会所建設 ・簡易水道豊橋水道局移管

時代年号		西暦	世の中のできごと	豊橋と周辺のできごと	大清水校区のできごと
昭和	45	1970	・大阪万国博覧会開催（3月25日）	・豊橋こども自然公園完成［現豊橋市総合動植物公園］	・体育委員会発足 ・交通安全モデル地区発表会 ※「交通安全ママさんの会」県警本部長、県交通安全協会長より感謝状
	46	1971	・沖縄返還協定調印（6月17日）		・婦人会、市民総おどり参加始める
	47	1972	・日中国交回復 ・沖縄の施政権返還	・豊橋港開港	［三代校区総代：片山玉四］ ・県立豊橋南高等学校開校 ・大清水小学校プール開設 ・校区民全体歩け歩け運動開催
	48	1973			・子供会発足（8単位） ※豊橋市子供会連絡協議会に加入 ・親交会、校区電話帳発行各戸配布
	49	1974			・大清水小学校体育館竣工 ・第1回校区ふれあい大運動会開催 ・校区婦人会を組織：第4回市婦人防火クラブ初期消火競技大会優勝
	50	1975		・530運動スタート	・大清水町地区総代制実施（ひばり、駅前、清水、本町、豊紡） ・南稜地区市民館竣工 ・第1回文化祭開催 ・豊橋警察署南稜派出所開所 ・仏光寺建立 ・レイクタウン建設進む
	51	1976			・ママさんバレー市大会優勝 ・校区婦人バレーボール大会 ・校区親睦野球大会［南高校グランド］ ・親交会マークを作成 ・校区婦人会：第6回市婦人防火クラブ初期消火競技大会優勝市長杯受賞
	52	1977			・大清水プラザ開店（大規模小売店） ・ママさんバレー市大会優勝 ・校区親睦野球大会［南高校グランド］ ・市体育大会で女子バレーボール優勝 ※バレーボールの練習を始めて4年、市で年間3度優勝する ・校区青少年健全育成事業始まる ・青少年防犯パトロール始まる
	53	1978		・豊橋技術科学大学開学	・南大清水子供会、愛知県から表彰 ・愛知県子供会16回大会に出席 ・校区婦人会解散 ・大清水町婦人部発足 ・校区婦人ソフトボール大会 ・東大清水町地内に「しあわせ地蔵」を祭る
	54	1979	・日中平和友好条約調印（8月12日）	・人口30万人都市 ・豊橋市美術博物館開館	・第1回ウォークラリー開催 ・各地区自主防災会発足 ・文化協会設立
	55	1980		・国営豊川総合用水土地改良事業第一期始 ・豊橋市資源化センター開設	・大清水幼稚園完工記念誌「無尽荘」発行 ・蒲郡信用金庫大清水支店開店
	56	1981		・豊川総合用水促進協議会できる（6月）	・南大清水町・東大清水町地区総代制実施5総代になる（西元町、東元町、富士見、藤ヶ谷、及び東大清水町）
	57	1982		・豊橋市中央図書館開館	［四代校区総代：大林美也］ ・親交会、校区電話帳二訂各戸配布 ・指定避難所の見直し（第一、第二　指定避難所）

時代年号		西暦	世の中のできごと	豊橋と周辺のできごと	大清水校区のできごと
昭和	57	1982			・校区交通安全推進委員 （初代：山本勝康） ・親交会、制服を決める
	58	1983		・豊橋短期大学開学	・大清水校区市民館竣工 ・レイクタウン分離独立 ・保護司任命、少年補導委員兼務 （二代：山本勝康）
	59	1984			・豊橋市立富士見小学校が分離独立 ・家庭教育推進地区指定（県２年間） ※家庭教育推進委員会発足 ・家庭教育十訓を制定、全戸配布
	60	1985			・大清水「ふるさとだより」創刊 ・大清水音頭作成 ・しょうぶ園づくり始まる ［藤ヶ谷→消防団詰所→地区市民館］ ・「家庭教育推進事業委員会」は、「ふるさとづくり推進委員会」と改称 ・親子ふれあい活動開催 「親子の歌とフォークダンスの集い」 ・大清水ふるさとの塔完成式 ・「ふるさとの塔」花壇整備始まる
	61	1986			・親子ふれあい活動開催「わらべ歌とフォークダンスの集い」 ・青少年育成校区指導員 （初代：小島　力） ・親子ふれあい活動開催 「三世代ふれあい造形活動」
	62	1987	・国鉄分割民営化 （４月１日）	・中国南通市と友好都市提携	・大清水小学校同窓会発足 ・校区創立30周年記念式典開催 （10月25日） ・記念事業： 記念誌発行「開けいく大清水」 校区章制定と校区旗作成 記念ブロンズ像「巣立ち」建立 校庭造園設置 タイムカプセル（50周年開封）
	63	1988		・豊橋市自然史博物館開館	・大清水神社認可
	64	1989	・昭和天皇崩御 （１月７日）		
平成	元	1989	・消費税施行 （４月１日）	・豊橋市総合体育館竣工	・大清水神社法人登記完了（２月） ・身障者部会発足 ・身障者部会市身体障害者協会加入
	2	1990	・東西ドイツ統一	・万場調整池完成	・親交会、校区電話帳三訂各戸配布
	3	1991	・湾岸戦争（１月17日）	・豊橋市二川宿本陣資料館開館	・野依台二丁目「北」総代会参入
	4	1992	・皇太子ご成婚 （６月９日）	・豊橋市総合動植物公園開園	・大清水校区青少年健全育成会発足 ・「ユーストア」開店 ・シルバースポーツ「ゲートボール」市中央大会優勝 ・アイシンＡＷ、校区参加 ・「大清水太鼓」発足
	5	1993			・「しょうぶの会」結成
	6	1994		・ライフポートとよはし開館	・大清水地区体育館竣工 ・大清水神社造営委員会設置 神社造営事業はじまる ・大清水児童クラブ設立 ・親交会創立30周年記念事業実施

時代年号		西暦	世の中のできごと	豊橋と周辺のできごと	大清水校区のできごと
	7	1995	・阪神淡路大震災（1月17日）		［五代校区総代：小島　力］ ・南部地域福祉センター竣工 ※(現)大清水地域福祉センター ・大清水入植50周年記念式典開催
	8	1996			・「大清水太鼓」を「しょうぶ太鼓」改称 ・第1回三世代レクスポ開催 ・野依トヨタ住宅校区参入
	9	1997		・ＪＡ豊橋設立	・豊橋市5農協合併、豊橋農業協同組合となる
	10	1998			・「こども110番のいえ」依頼開始
	11	1999		・豊橋市は中核市となる ・竜巻被害多大（9月）	・大清水神社ご遷宮（10月2日） ［開拓記念碑設置］ ［木遣り奉納］木遣り保存会設立 ［手筒花火奉納］大清水煙友会設立 ・愛知県酪農農業協同組合と改称
	12	2000		・アメリカオハイオ州トリード市姉妹都市提携	
	13	2001			［六代校区総代：若見康義］ ・「しょうぶ太鼓」市教育委員会、市民生委員児童委員協会長連名の表彰
	14	2002			・校区自主防災会連絡協議会結成
	15	2003	・ＴＶ地上デジタル放送開始		［七代校区総代：中田益雄］ ・［いきいき子育て推進事業］始まる ・校区防災会連絡協議会により総合防災訓練実施 ・親交会、校区電話帳四訂各戸配布 ・野依台二丁目南北2総代となる ・おおしみず憩いの杜開設 ・可知病院開院 ・シルバースポーツ「ゲートボール」市中央大会優勝
	16	2004	・台風過去最多上陸各地に多大の被害 ・新潟中越地震最大震度7弱（10月23日） ・スマトラ沖大地震と大津波（12月）死者32万人		・校区防災会連絡協議会、豊橋市長より感謝状 ・国道23号線豊橋バイパス大清水インター開通 ・元町病院開院 ・豊紡地区は解消し「ひばり」11組に編入 ・しょうぶ園簡易舞台完成 ・市営南大清水住宅完成・総代会参入 ・神社祭礼用、簡易スロープ完成
	17	2005	・中部国際空港「セントレア」開港（2月17日） ・万国博覧会「愛・地球博」開催（3月25日） ・記録的な豪雪	・豊橋市市制100周年記念事業開始（8月2日） ・豊橋市映画制作『早咲きの花』撮影が市内で8月1日より開始	・「大清水町婦人部」解消 ・大清水町、地縁団体となる（2月） ・「大清連」発足 ・神社祭礼簡易舞台完成（10月） ・青色回転灯パトロール開始
	18	2006		・アクアリーナ豊橋完成 ・豊橋市総代会百周年記念校区史発刊（12月）	・校区総代会「安全安心まちづくり」感謝状受く（愛知県豊橋警察署長） ［八代校区総代：仲井政弘］ ・豊橋市総代会百周年記念校区史『大清水』発刊（12月）

編集後記

豊橋市制百周年記念事業の一環として、各地区ごとに校区史を編集することになり、「校区のあゆみ　大清水」を６人の委員で編集・執筆をしました。

「心がかよいあう　すみよい町　大清水」をテーマに、平成16年10月24日の第１回編集委員会から25回を経て、18年４月には編集・執筆を終了することができました。市より示された条件の中で、次のような考えで編集・執筆を進めました。

①わかりやすく、利用しやすい校区案内・紹介冊子にしたい。

②「移り変わり」「地域の現状や将来像」「校区の特色」の三点を中心に編集する。

③史実に忠実な校区史でありたい。

「記念号」としてまとめる中で、大清水校区が「人と人の結びつきが深く、すみよい町」であることを認識しました。49年間の時の流れと重み、そして、先輩の方々が心血を注いで歩まれてきた一端を知ることができました。また「地域活動は継続する」ことが大切だと実感しました。

校区の資料は意外に少なく、編集が困難でした。その活動等を記録することの大切さ、また保存と活用の重要さを痛感しました。

新しい校区で、歴史も浅く、素材も少ない状況でした。「移り変わり」より、「現在の活動状況」が中心になりました。

昭和初期から中頃に移住した方々は、人々の結びつきを大事に、総代会、各種団体、小学校等が互いに連携を密にした活動をされたことが分かります。現在も「ふれあいや連携を密にした地域活動」が盛んな大清水校区だと実感しました。

資料収集、聞き取り等で、多くの方々のご協力をいただき感謝いたします。特に大清水小学校児童の皆さんに協力（さし絵、大清水への思い等）いただき、ありがとうございました。

参考資料

●近世豊橋の旅人たち ── 旅日記の世界 ──（豊橋市二川本陣資料館発行）　●三河日記（宇都宮藩士）　●伊良古之記（林　織江著）　●愛知県開拓史（愛知県発行）　●愛知県農地史（愛知県発行）　●豊橋市政80年史（豊橋市発行）　●とよはしの歴史（豊橋市発行）　●豊橋南部の開発（豊橋南高校発行）　●豊橋南部農協20年史（豊橋南部農協発行）　●豊橋の町名の変遷（吉川利明著）　●豊橋市大清水町史（河合隼路著）　●学校の歩み（大清水小学校発行）　●大清水神社造営記録（伴　延二著、大清水神社造営委員会）　●校区30周年記念史 開けいく大清水（大清水校区発行）　●心のふるさと大清水（大清水小学校発行）　●大清水ふるさとだより（大清水校区家庭教育推進委員会）　●高師風土記（高師風土記刊行委員会）　●郷土史老津（郷土史刊行委員会）　●天伯原（50年開拓委員会）

大清水校区史編集実行委員（50音順）

■大清水校区史編集委員長
中田　益雄

■大清水校区史編集委員・執筆者
片山　登一・手塚　　誠・永嶋　徹也
平山　　勝・増山　睦臣

■協力者
大清水小学校教職員と児童・校区関係者

■市サポーター
大林　利光・星　　力

校区のあゆみ　大清水

平成18年12月25日発行

編　集　大清水校区総代会
　　大清水校区史編集委員会
発　行　豊橋市総代会
印　刷　共和印刷株式会社

R100 古紙配合率100%の再生紙を使用しています。
PRINTED WITH SOY INK

2006年
市制100周年
100th Anniversary Toyohashi City
つながり ひろがる 未来 豊橋